

# 設計業務数量算出基準

令和8年4月

横浜市道路・交通政策局

# 目 次

第1章 土工数量計算	1
1-1 土工	2
1 適用	2
2 数量算出項目	2
3 区分	4
4 土量変化率	6
5 数量算出方法	8
1-2 作業土工	14
1-2-1 床掘工	14
1 適用	14
2 数量算出項目	14
3 区分	14
4 床掘勾配及び掘削余裕幅	15
5 数量算出方法	16
1-2-2 埋戻工	29
1 適用	29
2 数量算出項目	29
3 区分	29
4 数量算出方法	30
1-3 構造物の数量から控除しないもの	31
1-4 道路構造物標準図表におけるとりこわし工の体積	32
1 単位当りコンクリートとりこわし体積集計表	32
2 有筋・無筋の仕分けについて	39
第2章 寸法表示の方法	40
第3章 数量計算書のまとめ方	44
3-1 数量総括表	45
3-2 数量計算書の数値基準	45

# 目 次

第1章 土工数量計算	1
1-1 土工	2
1 適用	2
2 数量算出項目	2
3 区分	4
4 土量変化率	6
5 数量算出方法	8
1-2 作業土工	14
1-2-1 床掘工	14
1 適用	14
2 数量算出項目	14
3 区分	14
4 床掘勾配及び掘削余裕幅	15
5 数量算出方法	16
1-2-2 埋戻工	29
1 適用	29
2 数量算出項目	29
3 区分	29
4 数量算出方法	30
1-3 構造物の数量から控除しないもの	31
1-4 道路構造物標準図表におけるとりこわし工の体積	32
1 単位当りコンクリートとりこわし体積集計表	32
2 有筋・無筋の仕分けについて	39
第2章 寸法表示の方法	40
第3章 数量計算書のまとめ方	44
3-1 数量総括表	45
3-2 数量計算書の数値基準	45

# 第 1 章 土工数量計算

1-1 土工

1 適用

河川、道路工事における土工に適用する。

2 数量算出項目

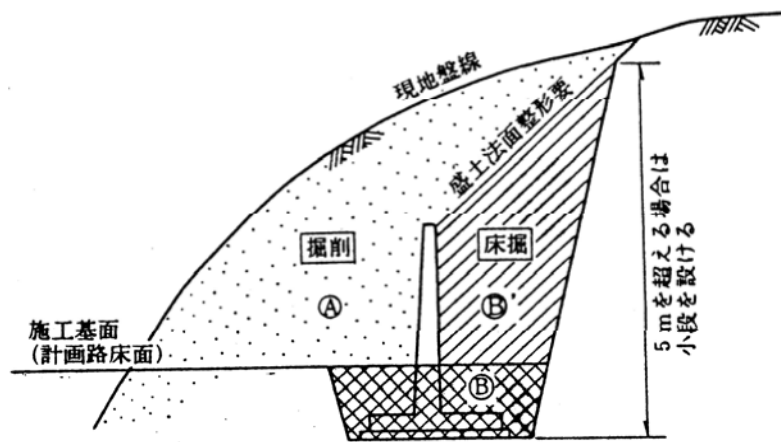
掘削、土砂等運搬、整地、路体(築堤)盛土、路床盛土、押土(ルーズ)、積込(ルーズ)、人力積込、転石破碎、残土等処分の土量を区分ごとに算出する。

(1) 掘削・床掘り (下図参照)

「掘削」とは、現地盤線から施工基面までの土砂等を掘り下げる箇所であり、「埋戻し」を伴わない箇所である。

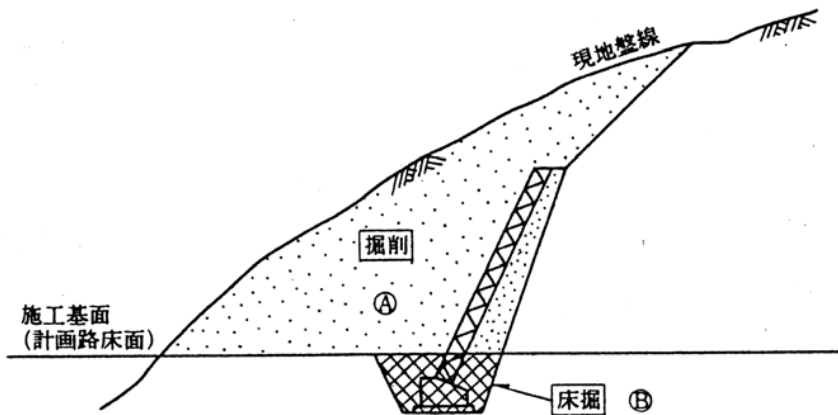
また、「床掘り」とは、構造物の築造又は撤去を目的に、現地盤線又は施工基面から土砂等を掘り下げる箇所であり、「埋戻し」を伴う箇所である。

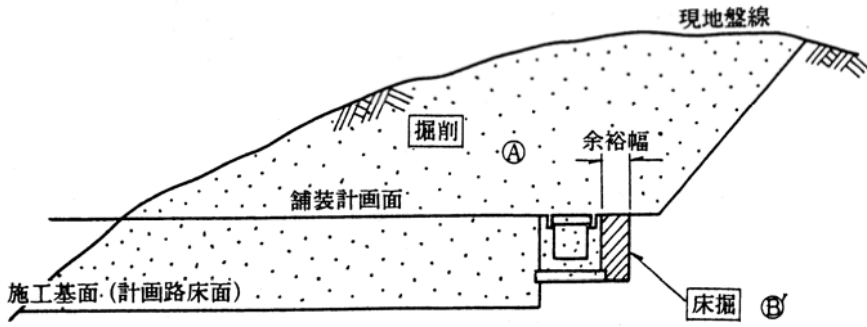
(道路)



- (注) 1 B' 領域については、実作業は「掘削」行為となるが、数量算出上は、「床掘」として算出するものである。
- 2 床掘り B' は、施工基面より下の部分 B と区分して数量をとりまとめる。

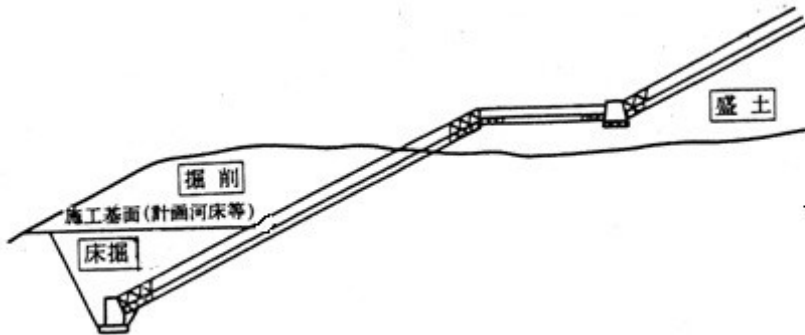
作業土工 ———— 床掘 : B 領域  
                  |          床掘 (掘削) : B' 領域





- (注) 1 掘削Aの領域は、施工基面（計画路床高）より上の部分で、構造物を施工する 為に掘削される部分Bは含まない。  
 2 床掘りB' は、施工基面より下の部分Bと区分して数量をとりまとめる。

(河川)

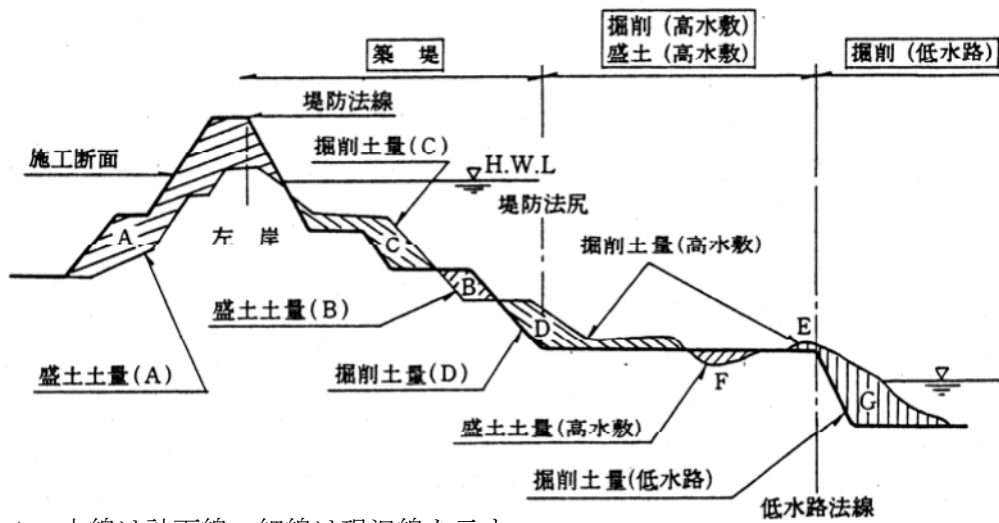


(2) 盛土（下図参照）

「盛土」とは、現地盤線又は計画埋戻し線より上に土砂を盛り立てる箇所である。

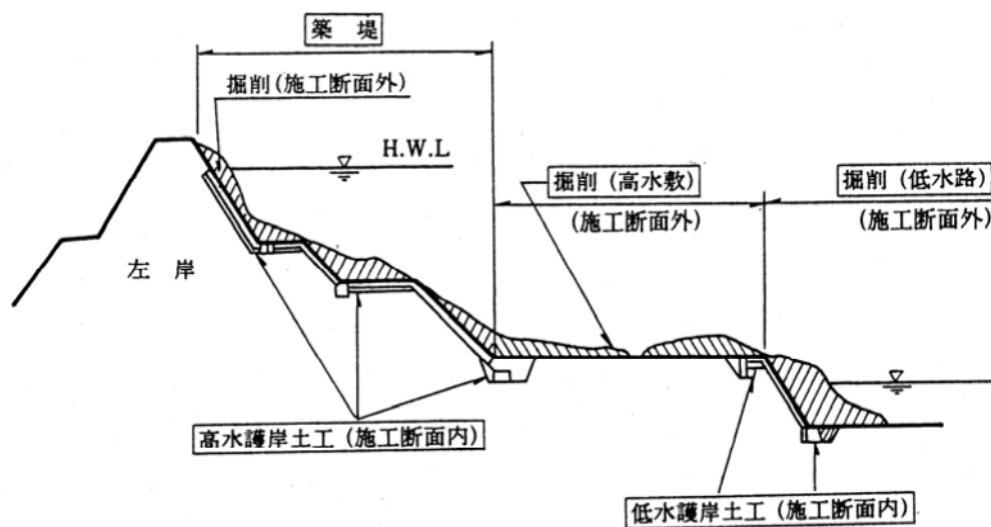
(河川)

ア 路体（築堤）盛土と掘削



- (注) 1 太線は計画線、細線は現況線を示す。  
 2 A～Dは路体（築堤）盛土、E、Fは高水敷土工、Gは低水路土工を示す。

イ 路体(築堤)盛土と護岸



(注) 太線は計画線、細線は現況線を示す。

3 区分

区分は、土質、構造物、施工形態、水陸とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目		区分	土質	構造物	施工形態	水陸	単位	数量	備考
土 工	掘削		○	○	○	○	m <sup>3</sup>		
	盛土		○	○	○	×	m <sup>3</sup>		
残土等処分			○	○	○	×	m <sup>3</sup>		

(注) 1 伐開除根および表土はぎにより生じた廃棄物については、別途数量を算出する。

(2) 土質区分 土質による区分は、下表のとおりとする。区分はC分類を標準とするが、土砂については、細分化が難しい場合はB分類として良い。

土および岩の区分表

区 分			説 明		摘 要
A	B	C			
土	礫質土	礫 混り土	礫の混入があって掘削時の能率が低下するもの	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土	礫 (G) 礫質土 (GF)
	砂質土及 び砂	砂	バケツなどに山盛り形状になりにくいもの	海岸砂丘の砂、マサ土	砂 (S)
		砂質土 (普通土)	掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの	砂質土、マサ土、粒度分布の良い砂、条件の良いローム	砂 (S) 砂質土 (SF) シルト (M)
	粘性土	粘性土	バケツ等に付着し易く、空げきの多い状態になりトラフィカビリローム ティが問題となり易いもの	ローム、粘性土	シルト (M) 粘性土 (C)
		高含水比 粘性土	バケツ等に付着し易く、特にトラフィカビリティが悪いもの	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土	シルト (M) 粘性土 (C) 火山灰質粘性土 (V) 有機質土 (O)
岩 お よ び 石	岩塊玉石	岩塊玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空げきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。		玉石まじり土、岩塊破 砕された岩、ごろごろした河床
	軟岩	軟岩	I	第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。指先で離し得る程度のもので、亀裂の間隔は1~5cmぐらいのものおよび第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は5~10cm程度のもの。	地山弾性波速度700~2800m/sec
			II	凝灰質で堅く固結しているもの。風化が目によって相当進んでいるもの。き裂間隔が10~30cm程度で軽い打撃により離し得る程度異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離し得るもの。	
	硬岩	中硬岩		石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でなくとも相当の硬さを有するもの。風化の程度があまり進んでいないもの。硬い岩石で間隔30~50cm程度のき裂を有するもの。	
硬岩		硬岩	I	花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。き裂間隔が1m内外で相当密着しているもの。硬い良好な石材を取り得るようなもの。	地山弾性波速度3000m/sec 以上
	II		けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。風化していない新鮮な状態のもの。き裂が少なくよく密着しているもの。		

(3) 構造物区分

構造物ごとに区分して算出する。また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。

#### 4 土量変化率

統一分類法により分類した土の各土質に応じた変化率は表（1）を標準とする。なお、細分化し難いときは表(2)を使用して良いものとする。

##### (1) 土量の変化率表

分類名称			変化率L	変化率C
主要区分	記号			
レキ質土	レキ	(GW) (GP) (GPs) (G-M) (G-C)	1.20	0.95
	レキ質土	(GM) (GC) (GO)	1.20	0.90
砂質土 及び砂	砂	(SW) (SP) (SPu) (S-M) (S-C) (S-V)	1.20	0.95
	砂質土 (普通土)	(SM) (SC) (SV)	1.20	0.90
粘性土	粘性土	(ML) (CL) (OL)	1.30	0.90
	高含水比粘性土	(MH) (CH)	1.25	0.90
岩塊玉石			1.20	1.00
軟岩Ⅰ			1.30	1.15
軟岩Ⅱ			1.50	1.20
中硬岩			1.60	1.25
硬岩Ⅰ			1.65	1.40

(注) 本表は体積（土量）より求めたL、Cである。

##### (2) 土量の変化率表

分類名称	変化率L	変化率C	1/C	L/C
主要区分				
レキ質土	1.20	0.90	1.11	1.33
砂質土及び砂	1.20	0.90	1.11	1.33
粘性土	1.25	0.90	1.11	1.39

(注) 1 本表は体積（土量）より求めたL、Cである。

2 1/Cは「締固め後の土量」を「地山の土量」に換算する場合に使用する。

3 L/Cは「締固め後の土量」を「ほぐした土量」に換算する場合に使用する。

(3) 積算における土量の取扱

ア 各土工における積算対象土量は、下記とする。

- 掘削、積込 …………… 地山土量
- 運 搬 …………… 地山土量
- 締固めを行う場合の埋戻し、盛土、敷均し又は締固め …………… 締固め土量
- 残 土 …………… 地山土量
- 捨土均し …………… 地山土量
- 購 入 土 …………… ほぐし土量 (単価がほぐし土の場合)

(注) 購入土の変化率は代価表の中で考慮し、設計書に表示する数量は、盛土断面計算土量とする。

イ 残 土

掘削土砂の一部を埋戻し、ローラ、ブルドーザ、タンパ等の機械で転圧する場合の残土の算出は次式による。

$$\text{残土 (地山土量)} = \text{掘削土量 (掘削計算断面)} - \text{埋戻土量 (埋戻される計算断面} \div C)$$

ウ 崩土・仮置土等ルーズな土砂

崩土・仮置土等ルーズな土砂を掘削、運搬する場合は地山の土量に換算し、掘削土量を決定する。

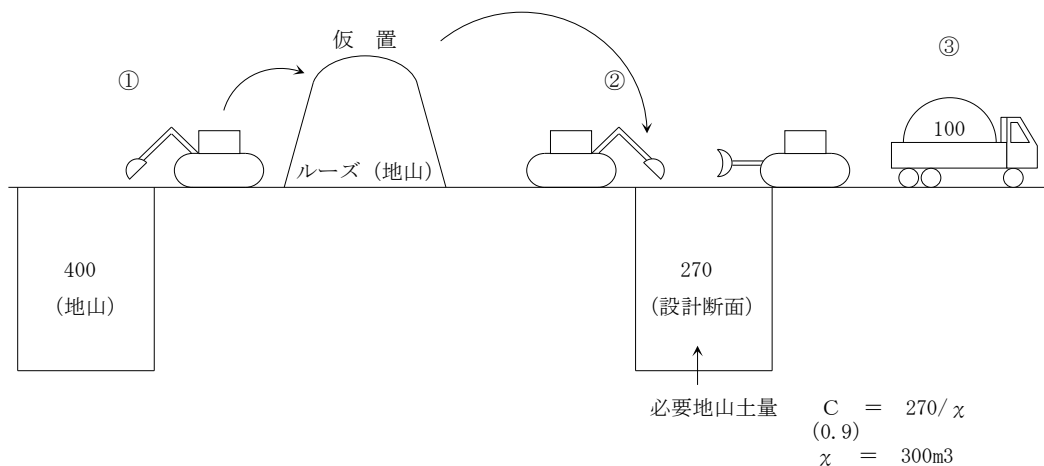
$$\text{掘削土量 (地山土量)} = \text{掘削計算断面 (ほぐし土量)} \times 1/L$$

備考 掘削土量の掘削、積込は現場条件を「ルーズな状態」とする。

(4) 計 算 例

ア 歩掛は、地山換算である。

イ 機械締固め作業歩掛は、設計断面である。



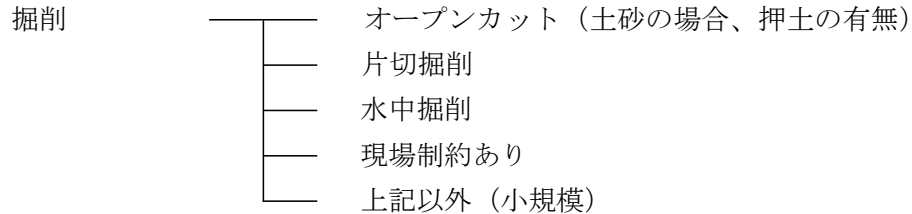
- ① 掘 削 (バックホウ) …………… 地山土量 400m3
- ② 埋戻投入 ( " ) …………… 設計断面 270m3
- [地山土量 300m3 (270/0.9) ルーズな状態]
- ③ 残 土 (ダンプトラック) …………… 地山土量 100m3 (400-300)

5 数量算出方法

数量の算出は、下記の方法によるものとし、平均断面法によることを標準とする。  
 土量＝平均断面積×延長  
 法面積＝平均法長×延長

(1) 掘削

ア 断面積（道路） 下記の項目に区分して算出する。



(ア) オープンカット

「オープンカット」は、下左図に示すような切取面が水平もしくは緩傾斜をなすように施工できる場合で、切取幅 5 m 以上、かつ延長 20m 以上を標準とする。

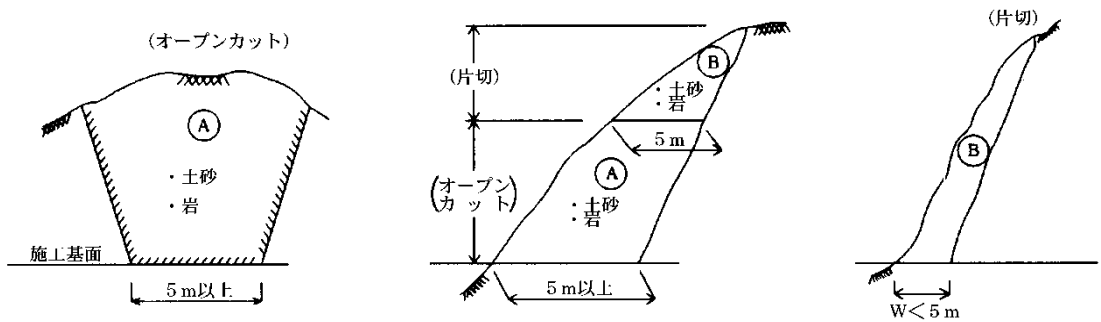
(イ) 片切掘削

「片切掘削」は、下中図および下右図に示すような切取幅 5 m 未満の領域 B を施工する場合とする。

(ウ) 水中掘削

「水中掘削」は、土留・仮締切工の施工条件において掘削深さが 5 m を超える場合、又は掘削深さが 5 m 以内でも土留・仮締切工の切梁等のためバックホウが使用できない場合で水中の掘削積込作業。

(エ) 下中図に示すような箇所（領域 A）にあっても、地形及び工事量等の現場条件を十分考慮の上、前述のオープンカット工法が可能と判断される場合はオープンカットを適用する。



(オ) 「現場制約あり」は、機械施工が不可能な場合に適用する。

(カ) 上記以外（小規模）は、1箇所当り施工量が 100m<sup>3</sup> 以下の掘削・積込み作業, 又は施工量 100m<sup>3</sup> 以上で現場が狭隘の場合の掘削・積込み作業の場合に適用する。

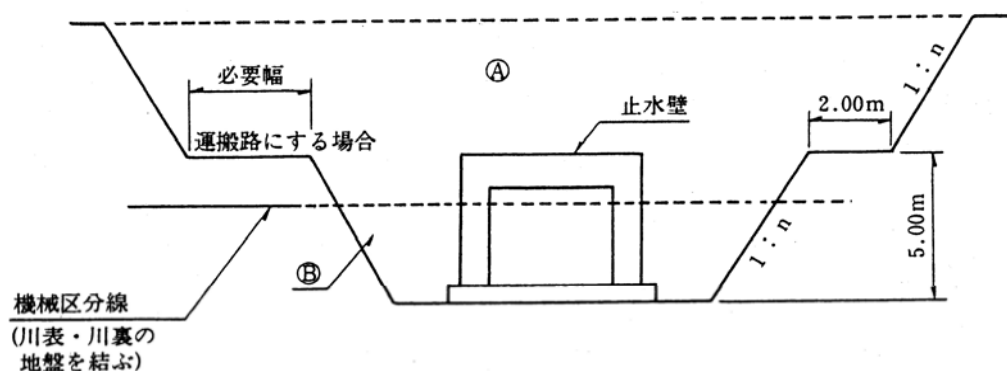
(キ)バックホウの標準掘削幅 (参考)

規 格	最大掘削深 (標準ブーム)	バケット幅
山積 0.13m <sup>3</sup> (平積 0.10m <sup>3</sup> )	2.6m	0.45m
山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.20m <sup>3</sup> )	3.3m	0.60m
山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	4.2m	0.75m
山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> )	6.0m	1.00m

※下水道用設計積算要領 (日本下水道協会) より抜粋

イ 断面積 (河川)

「数量算出項目」を参照の上算出する。  
また、堤防横断構造物の場合、下図のとおり A 領域、B 領域に区分して算出する。



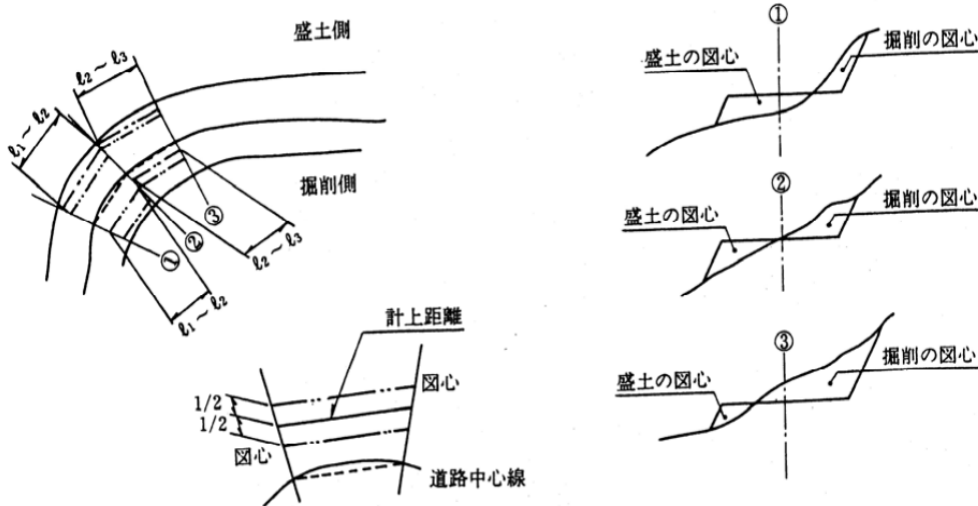
- (注) 1 余裕幅は、止水壁から 0.5m を標準とする。  
(止水壁の無い場合の余裕幅は 0.5m を標準とする)
- 2 法勾配 (n) ①砂地盤 1 : 1.5  
②その他地盤 1 : 1.0

上記は、一般的な場合であり、これにより難しい場合は、法面安定計算等により設定する。

ウ 距離のとり方 (道路)

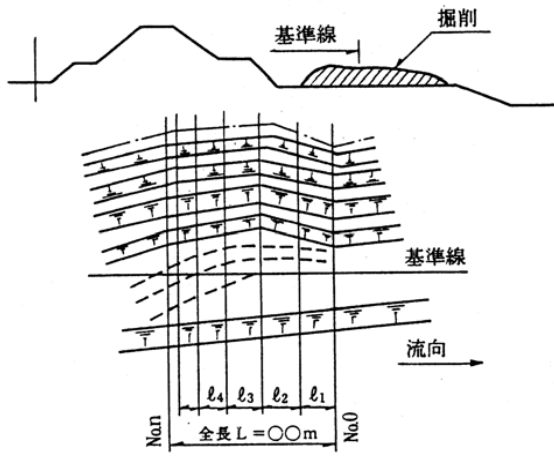
道路中心線上の距離とすることを標準とする。

[参考] 半径の小さな曲線部 (道路中心線で  $R=50\text{m}$  未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、計算断面の図心位置での距離としてよい。



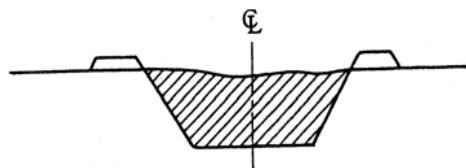
エ 距離のとり方 (河川)

(ア) 高水敷部分 掘削横断図の基準線を設定し、距離を決める。



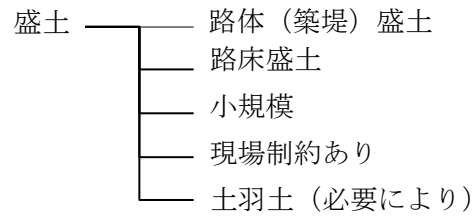
(イ) 低水敷部分 低水路法線の距離を標準とする。ただし、曲線部でそれが不适当と判断される部分については、平均距離とする。

なお、水路等全断面掘削の場合は、下図のように中心線の距離を標準とする。



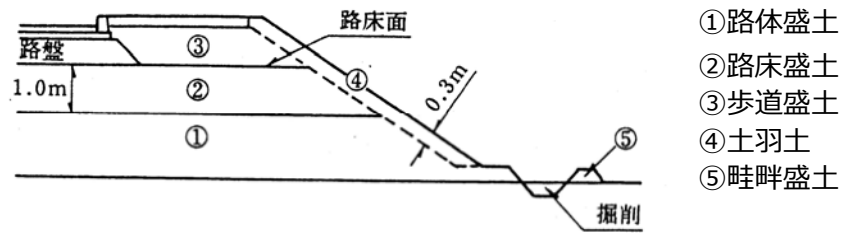
(2) 盛土

ア 断面積 (道路) 下記の項目に区分して算出する。(下図参照)

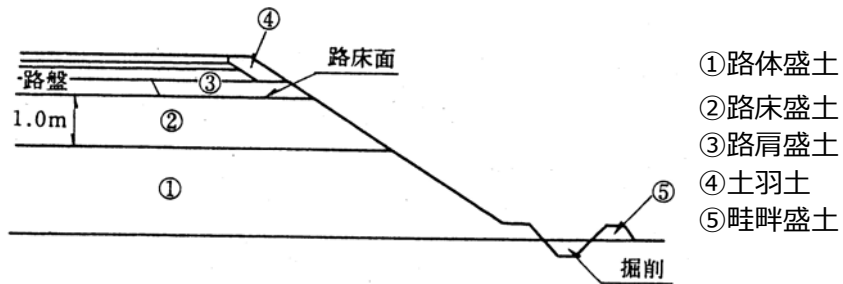


※ 土羽土  $V(m^3) = A(m^2) \times 0.3(m)$

(ア) 土羽土と路体等の材料が異なる場合



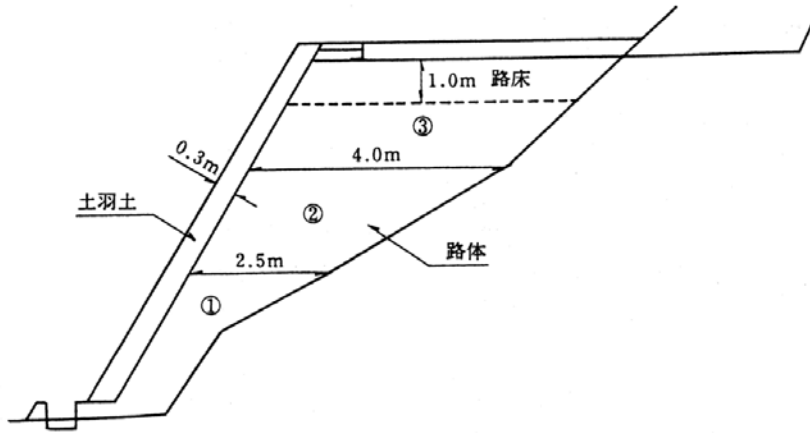
(イ) 土羽土と路体等の材料が同一の場合



- (注) 1 路床は、必要に応じて、上部路床と下部路床に区分して算出する。  
 2 畦畔盛土は、必要に応じ計上する。  
 3 土羽土は、下記により必要に応じて区分して算出する。  
 ① 法面工が種子帯工及び筋芝の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料であっても区分する。  
 ② ①以外の法面工の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料でない場合に区分する。

また、路体（築堤）盛土は施工幅員、路床盛土は平均幅員により下記のとおり区分して算出する。

- ①2.5m未満
- ②2.5m以上4.0m未満
- ③4.0m以上



イ 断面積（河川）

「数量算出項目」を参照の上算出する。

ただし、土羽土を計上する場合の堤体盛土量は、下記により算出する。



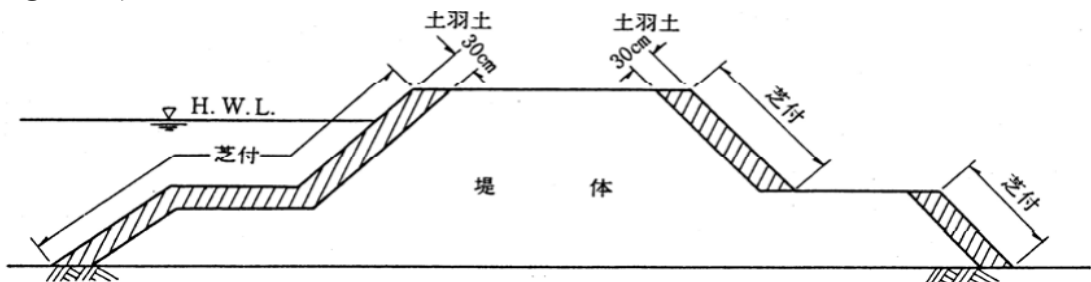
路体（築堤）盛土  $V_0 = \text{全体盛土} V - V_1$

土羽土  $V_1 = A (\text{m}^2) \times 0.3 (\text{m})$

面積  $A = \text{平均法長} (\bar{C}) \times \text{延長} (L)$

また、路体（築堤）盛土は、施工幅員により下記のとおり区分して算出する。「断面積（道路）」参照のこと。

- ①2.5m未満
- ②2.5m以上4.0m未満
- ③4.0m以上



- (注) 1 小段の土羽土は、小段に芝付けを施工する場合に計上する。  
 2 土羽土は、下記により必要に応じて区分して算出する。  
 ① 法面工が、種子帯工および筋芝の場合は、土羽土と堤体盛土が同一材料であっても区分する。  
 ② ①以外の法面工の場合は、土羽土と堤体盛土が同一材料でない場合に区分する。

ウ 距離の取り方（道路）

道路中心線上の距離とすることを標準とする。

[参考]

半径の小さな曲線部（道路中心線で $R=50\text{m}$ 未満）等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、計算断面の図心位置での距離としてよい。

エ 距離のとり方（河川） 築堤（築堤部分の切土を含む）については、堤防法線（川表天端肩）の距離を標準とする。

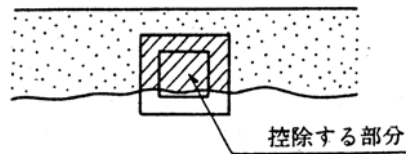
ただし、曲線部でそれが不適当と判断される部分については平均距離とする。

(3) 残土等処分 残土等処分の土量は地山土量とし、埋戻しの土量変化率（ $C$ ）を考慮する。

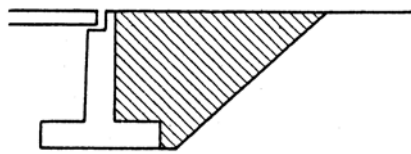
(例) 残土量 = 床掘り量 - 埋戻し量  $\times$  土量変化率（ $1/C$ ）

(4) 控除土量

ア 横断構造物等（管渠、函渠、樋門等）において、現地盤線以上の断面積が $1\text{m}^2$ 以上となる場合は、盛土量からこれを控除する。



イ 構造物に裏込め材を使用する場合には、盛土量からこれを控除し、別途裏込め材（セレクト材）の数量を算出する。



(注) セレクト材 堤防断面箇所については、堤体材料と同一材料とする。

## 1-2 作業土工

### 1-2-1床掘工

#### 1 適用

河川・道路工事における床掘工に適用する。

#### 2 数量算出項目

床掘りは、「土工」参照の上、算出するものとする。

#### 3 区分

区分は、土質区分、施工方法、土留方式の種類、障害の有無とする。

数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	土質区分	施工方法	土留方式の	障害の有無	単位	数量	備考
床掘り		○	○	○	○	m3		

4 床掘勾配及び掘削余裕幅

(1) 床掘勾配

オープン掘削の床掘り勾配は、下表を標準とする。

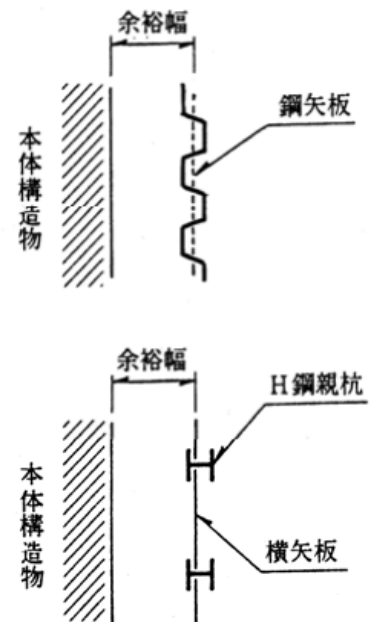
土質区分	掘削面の高さ	床掘勾配	小段の幅
中硬岩・硬岩	5m未満	直	-
	全掘削高5m以上	1 : 0.3	下からH = 5m毎に1m
軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ	1m未満	直	-
	1m以上5m未満	1 : 0.3	-
	全掘削高5m以上	1 : 0.3	下からH = 5m毎に1m
レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1m未満	直	-
	1m以上5m未満	1 : 0.5	-
	全掘削高5m以上	1 : 0.6	下からH = 5m毎に1m
砂	5m未満	1 : 1.5	-
	全掘削高5m以上	1 : 1.5	下からH = 5m毎に2m
発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2m未満	1 : 1.0	下からH = 2m毎に2m

(注) 上記により難しい場合は、別途考慮できる。

(2) 掘削余裕幅 (大型構造物)

橋台、橋脚、鉄筋コンクリート擁壁、ボックスカルバート、もたれ擁壁等  
余裕幅は、下表を標準とする。

種別	足場工の有無	余裕幅
オープン掘削	足場工なし	50cm
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170cm (50cm)
土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100cm (70cm)
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220cm (100cm)



種別	適用構造物	余裕幅
岩盤部の掘削 (オープン掘削)	無筋構造物、もたれ式擁壁等	10cm

- (注) 1 余裕幅は本体コンクリート端からとする。  
 2 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。  
 3 足場工の必要な場合とは、H = 2m以上の構造物。  
 4 共同溝等の特殊な場合は、別途取り扱う。

(3) 掘削余裕幅 (小型構造物)

ブロック積 (石積) 擁壁、重力式擁壁、U形側溝、現場打側溝、横断暗渠、L形側溝、地先境界石、植樹ます、雨水桝、集水桝等

余裕幅は、下表を標準とする。

掘削形態		適用構造物	余裕幅	備考
土留工 (締切) 設置		構造物直高 2.0m未満の無筋構造物 (重力式擁壁等)	100 cm	
オープン掘削			30 cm	
オープン掘削		ブロック積 (石積) 擁壁	30 cm	根入れ部及び基礎部分
オープン掘削	H = 1.0m未満	工場二次製品使用 (I) (U形側溝、横断暗渠、U形側溝補強付等)	10 cm	
	H = 1.0m以上		20 cm	
	H = 1.0m未満	工場二次製品使用 (II) (雨水桝等)	20 cm	壺掘り
	H = 1.0m以上		30 cm	"
	H = 1.0m未満	現場打コンクリート使用 (I) (現場打側溝、地先境界石、植樹ます、L形側溝、U形側溝補強付等)	20 cm	
	H = 1.0m以上		30 cm	
	H = 1.0m未満	現場打コンクリート使用 (II) (集水桝等)	30 cm	壺掘り
	H = 1.0m以上		50 cm	"

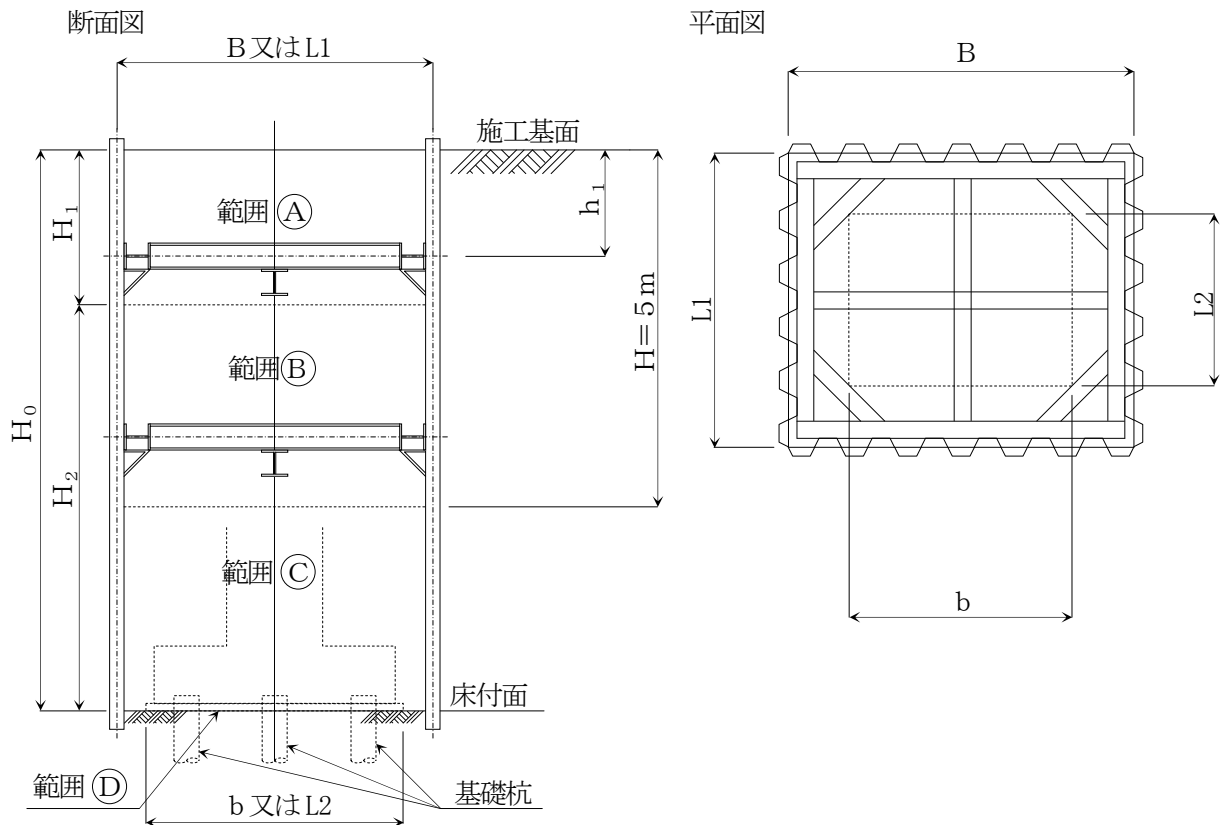
※ H : 掘削深さ

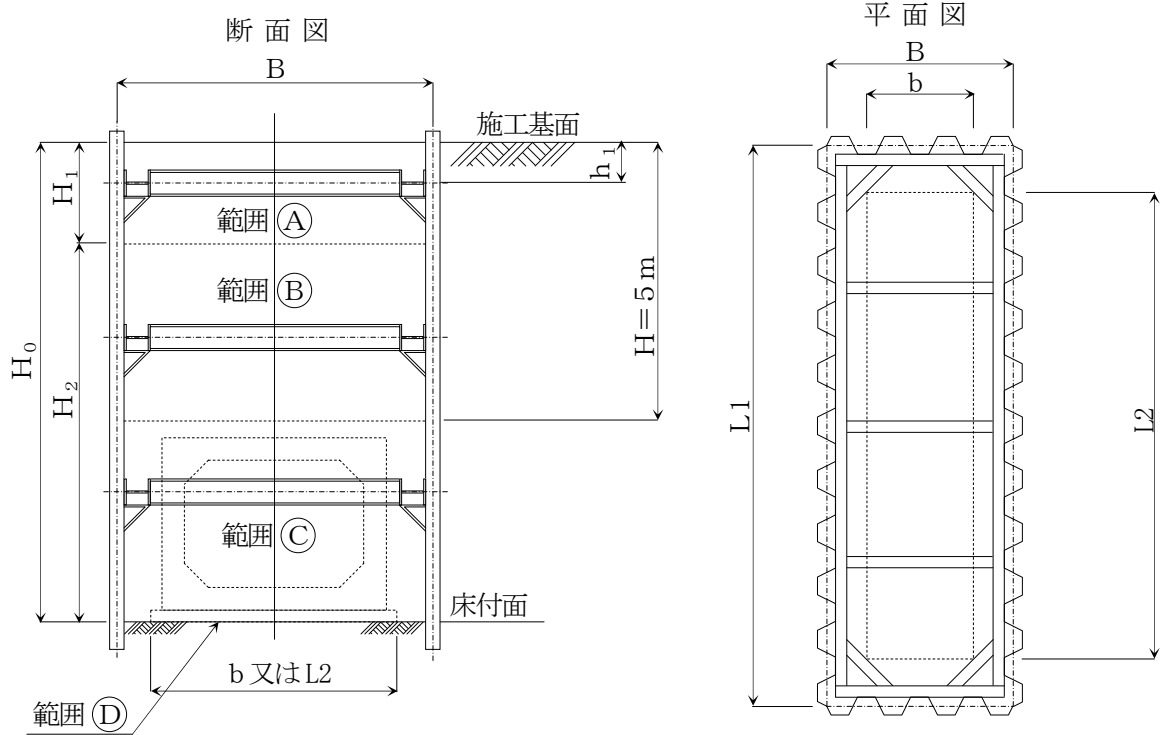
5 数量算出方法

(1) 大型構造物 (共同溝は除く)

ア 土留工がある場合の算出方法

(ア) 切梁式土留工の場合、下図に示す①、②、③、④を別々に算出する。





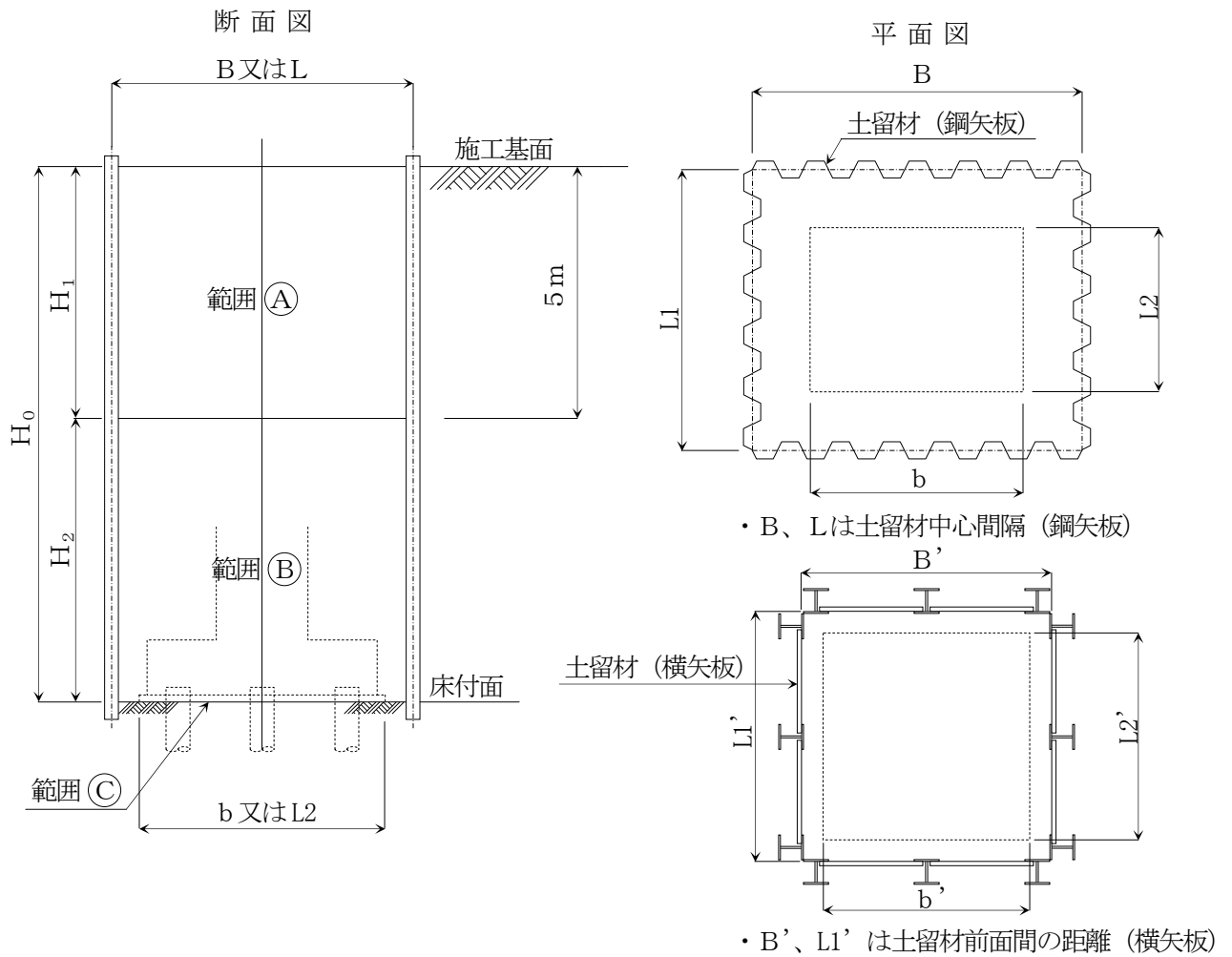
① 掘削工

- ・ B、L1 は、土留材中心間隔。(鋼矢板)  
(H鋼横矢板方式の場合は、土留材前面間の距離とする。)
- ・  $H_0$  は、掘削必要深さ。
- ・  $h_1$  は、施工基面から第1段目の腹起し中心までの深さ。
- ・  $H_1$  は、 $(h_1 + 1.0\text{m})$  とする。
- ・  $H_2$  は、 $(H_0 - H_1)$  とする。
- ・ 範囲 ① の土量 =  $B \times L1 \times H_1$
- ・ 範囲 ② の土量 =  $B \times L1 \times (5.0\text{m} - H_1)$
- ・ 範囲 ③ の土量 =  $B \times L1 \times (H_0 - 5.0\text{m})$

② 基面整正工

- ・ 範囲 ④ の面積 =  $b \times L2$

(イ) 自立式土留工の場合、下図に示す①、②、③を別々に算出する。



① 掘削工

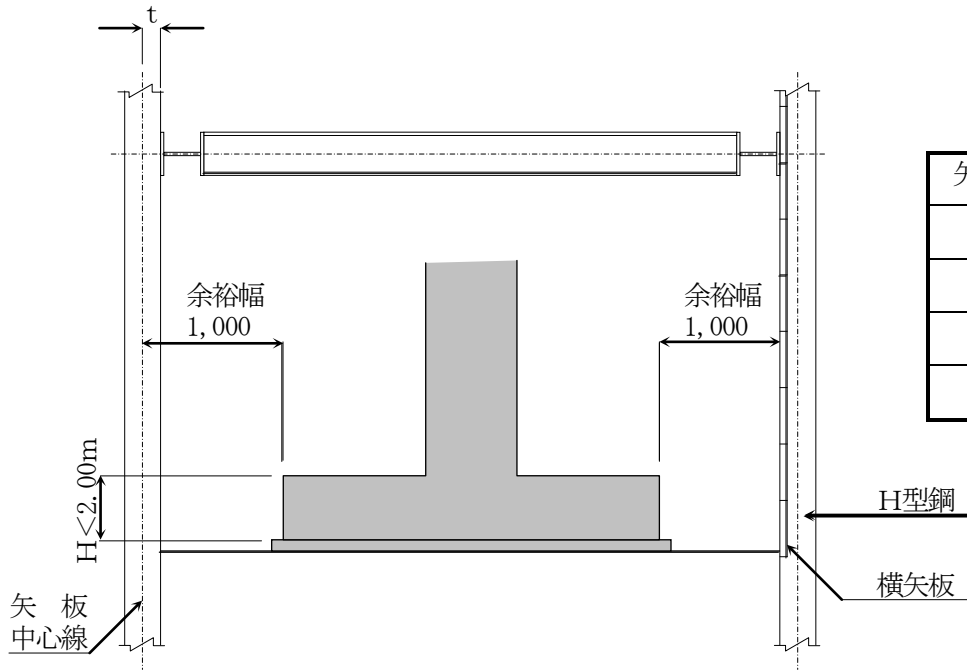
- H<sub>0</sub>は、掘削必要深さ。
- H<sub>1</sub>は、5.0m
- H<sub>2</sub>はH<sub>0</sub>−H<sub>1</sub> 《ただし、H<sub>0</sub><5.0mの場合は、H<sub>2</sub>=0とする。》

- 範囲①の土量=B×L1×H<sub>1</sub> (鋼矢板方式……B'×L1'×H<sub>1</sub>)
- 範囲②の土量=B×L1×H<sub>2</sub> (鋼矢板方式……B'×L1'×H<sub>2</sub>)

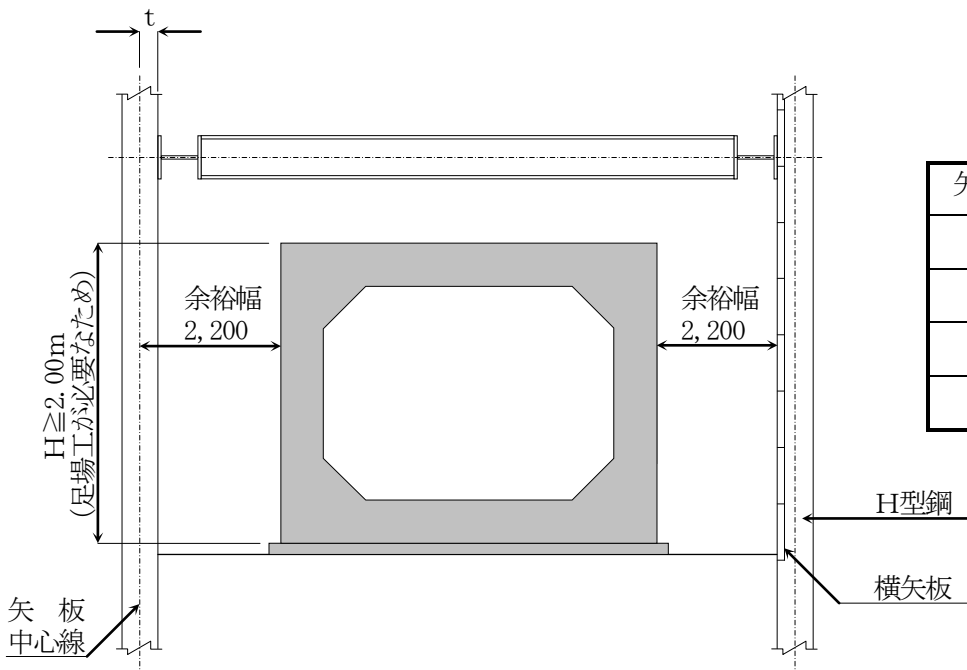
② 基面整正工

- 範囲③の面積=b×L2 【鋼矢板方式……b'×L2'】

[参考図] 構造物と締切矢板（H鋼横矢板）との標準間隔



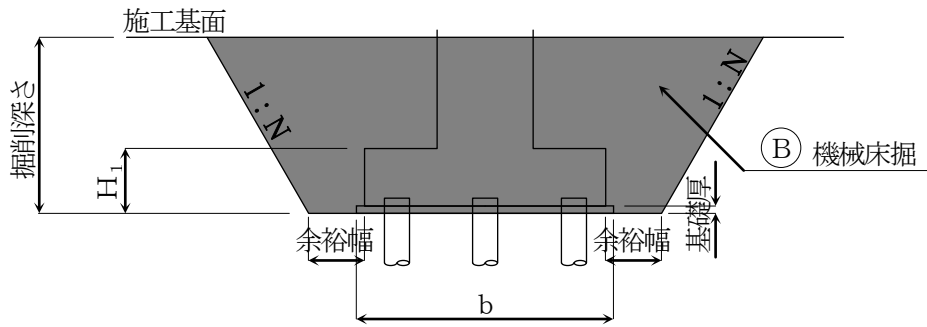
矢板種別	t (mm)
Ⅱ型	100
Ⅲ型	125
Ⅳ型	170
Ⅴ型	200



矢板種別	t (mm)
Ⅱ型	100
Ⅲ型	125
Ⅳ型	170
Ⅴ型	200

イ オープン掘削の場合の掘削幅、土量の算出方法

(7) 大型構造物（橋台、橋脚等）



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照。

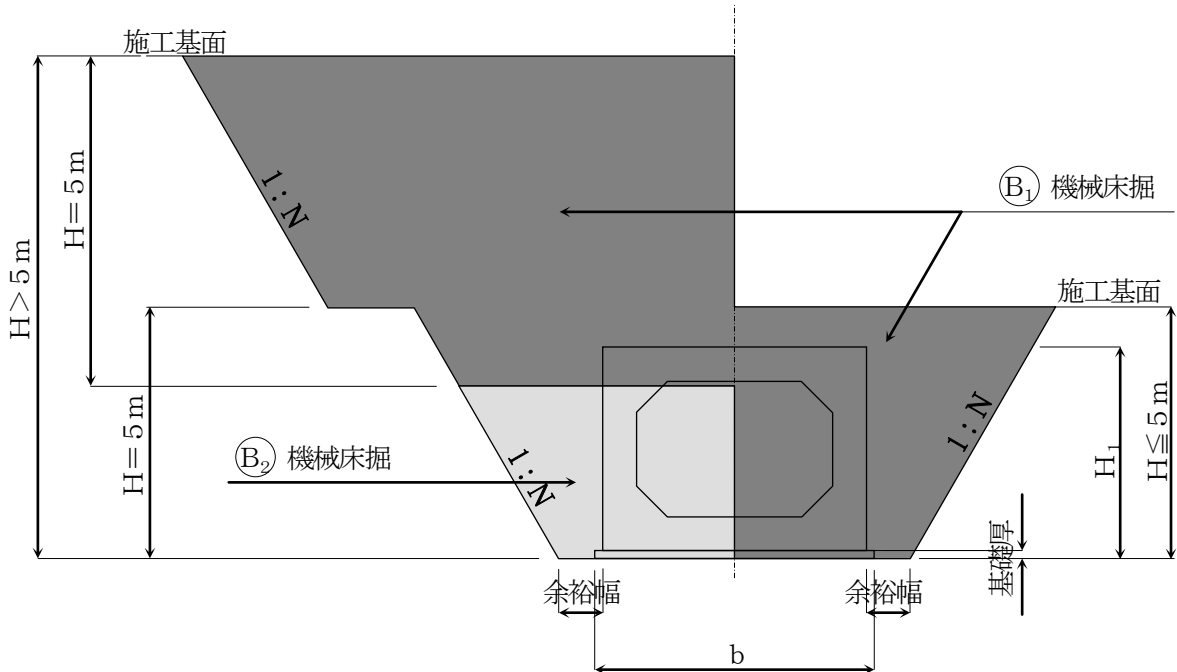
余裕幅：0.50m ( $H_1 < 2\text{m}$ )

b：人力基面整正工（面積算出）

基礎厚

杭基礎・直接基礎（岩盤）	均しコンクリート	0.10m
その他	砕石基礎（クラッシュラン40～0） +均しコンクリート	0.15m 0.10m

(i) フーチングのない構造物（ボックスカルバート等）



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照。

余裕幅： $H_1 < 2.0\text{m}$ のとき . . . 0.50m

$H_1 \geq 2.0\text{m}$ のとき . . . 1.70m（足場工が必要なため）

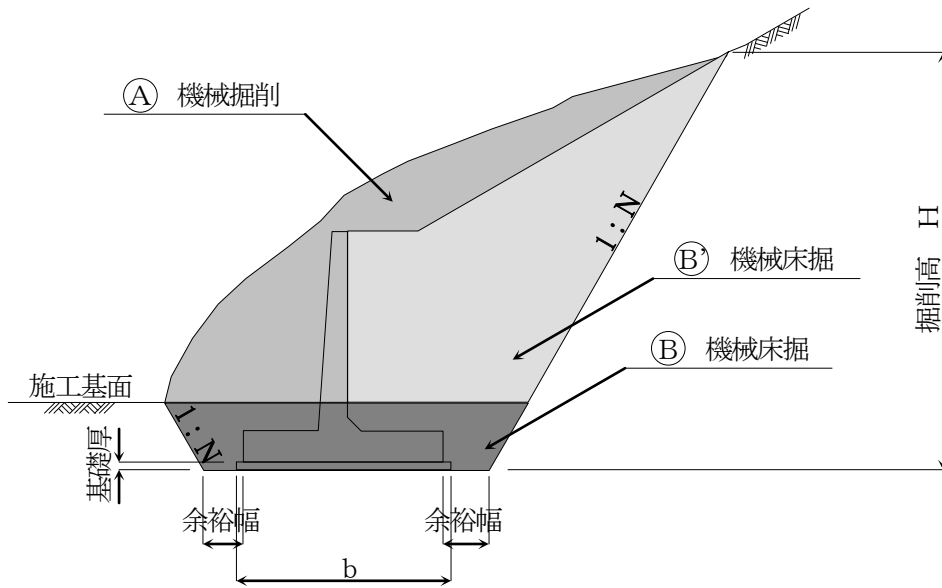
b：人力基面整正工（面積算出）

基礎厚

杭基礎・直接基礎（岩盤）	均しコンクリート	0.10m
その他	砕石基礎（クラッシュラン40～0） +均しコンクリート	0.15m 0.10m

※ 施工基面からの床掘り深さにより上図を参照して施工基面から5mまでの部分をB<sub>1</sub>領域、施工基面から5mを超える部分をB<sub>2</sub>領域に区分して算出する。

(㊦) 鉄筋コンクリート擁壁及び構造物直高2.0m以上の有筋擁壁



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照。

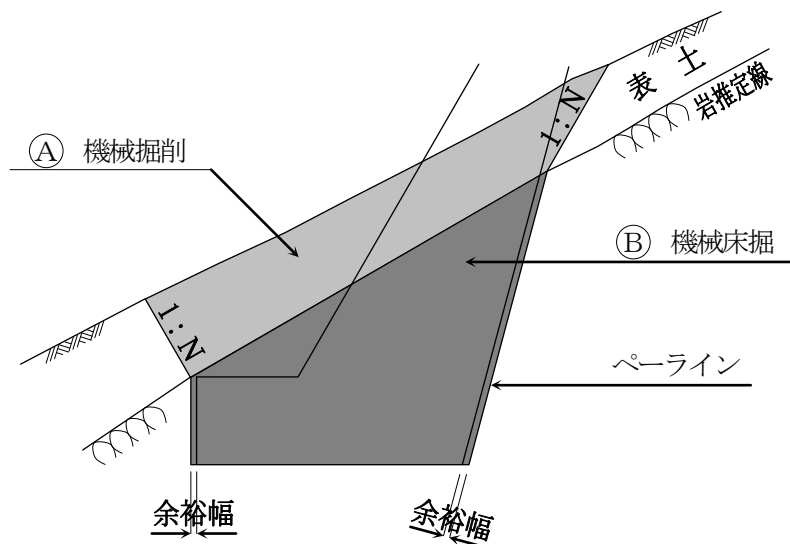
余裕幅：0.50m

b：人力基面整正工（面積算出）

基礎厚

杭基礎・直接基礎（岩盤）	均しコンクリート	0.10m
その他	砕石基礎（クラッシュラン40～0） +均しコンクリート	0.15m 0.10m

(㊧) 岩盤部の掘削（無筋構造物、もたれ式擁壁等）



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照。

余裕幅：0.10m

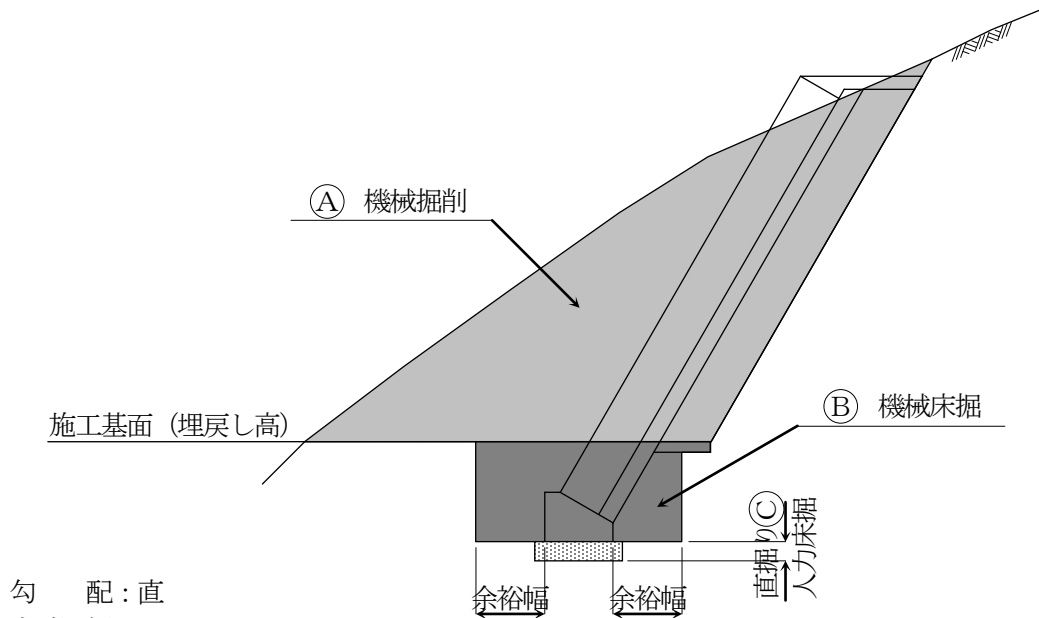
※ ペーライン部は型枠を設置できない場合、余分にコンクリートを計上するが、掘削土量は計上しないこと。

(2) 小型構造物

(注) ①基礎砕石の施工幅がバックホウの標準掘削幅未満の場合は、人力床掘とする。

②「構造物掘削余裕幅 小型構造物」における基礎砕石の床掘は、L形側溝を除き、施工幅に関わらず人力床掘とする。

ア ブロック積（石積）擁壁、もたれ式擁壁等



勾配：直

余裕幅：0.30m

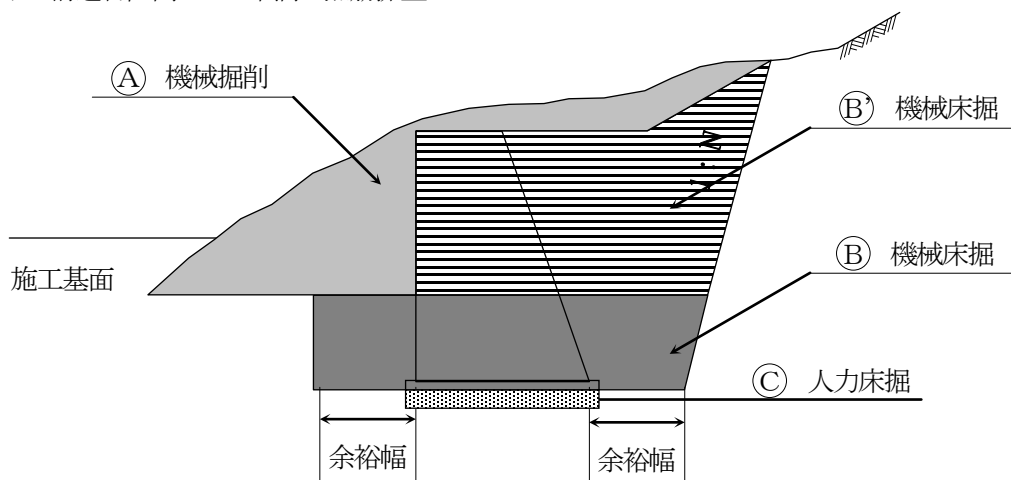
掘削工：範囲 (A) 機械掘削

範囲 (B) 機械床掘

範囲 (C) は直掘りで人力床掘 …… 砕石基礎（クラッシュラン40～0）0.15m

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

イ 構造物直高2.0m未満の無筋擁壁



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照。

余裕幅：0.30m

掘削工：範囲 (A) 機械掘削

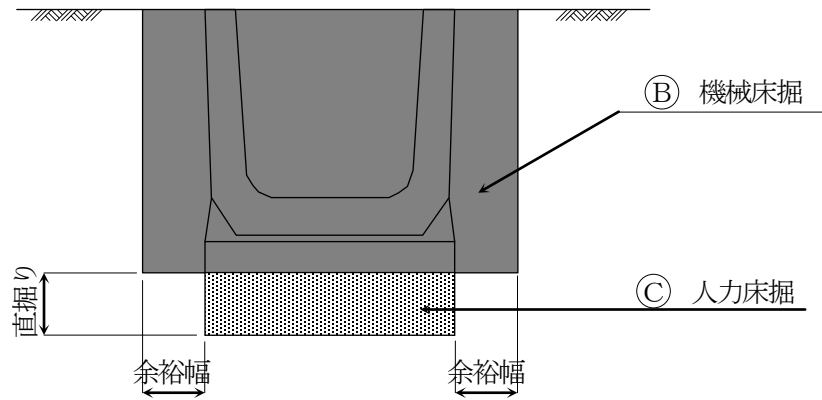
範囲 (B) 機械床掘

範囲 (B') 機械床掘 ……均しコンクリート0.05m個所含む

範囲 (C) 人力床掘 …… 砕石基礎（クラッシュラン40～0）0.10m

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

ウ U形側溝



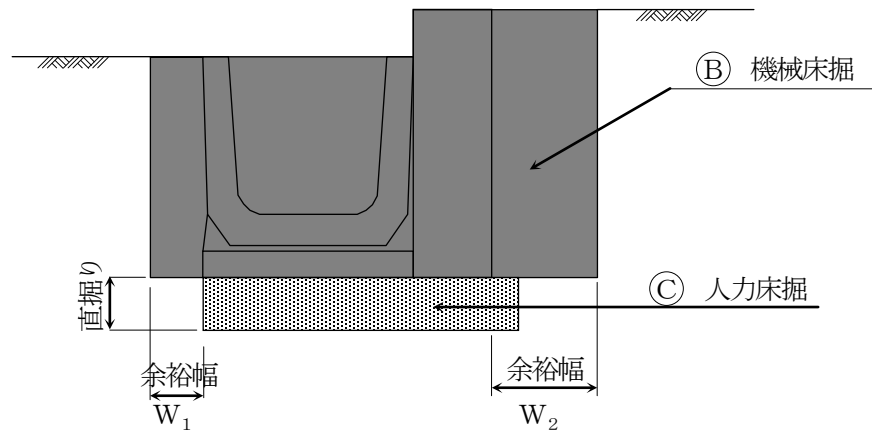
余裕幅：0.10m

掘削工：範囲 ② 機械床掘

範囲 ③ 直掘りで人力床掘 . . . . . 砕石基礎（クラッシュラン 40～0） 0.10m

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

エ U形側溝（補強付）



余裕幅： $W_1=0.10\text{m}$

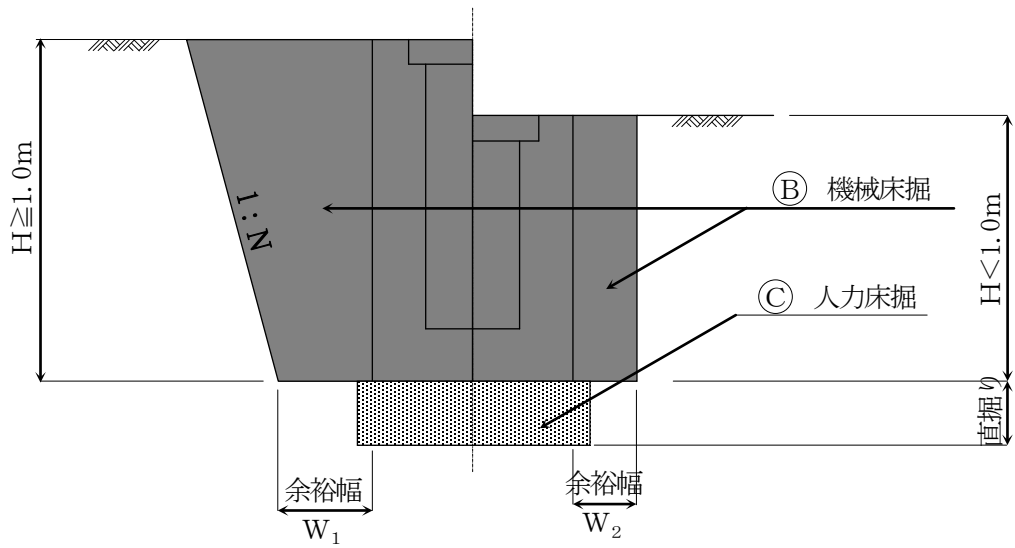
$W_2=0.20\text{m}$

掘削工：範囲 ② 機械床掘

範囲 ③ 直掘りで人力床掘 . . . . . 砕石基礎（クラッシュラン 40～0） 0.10m

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

オ 現場打側溝



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照

余裕幅： $W_1=0.30\text{m}$

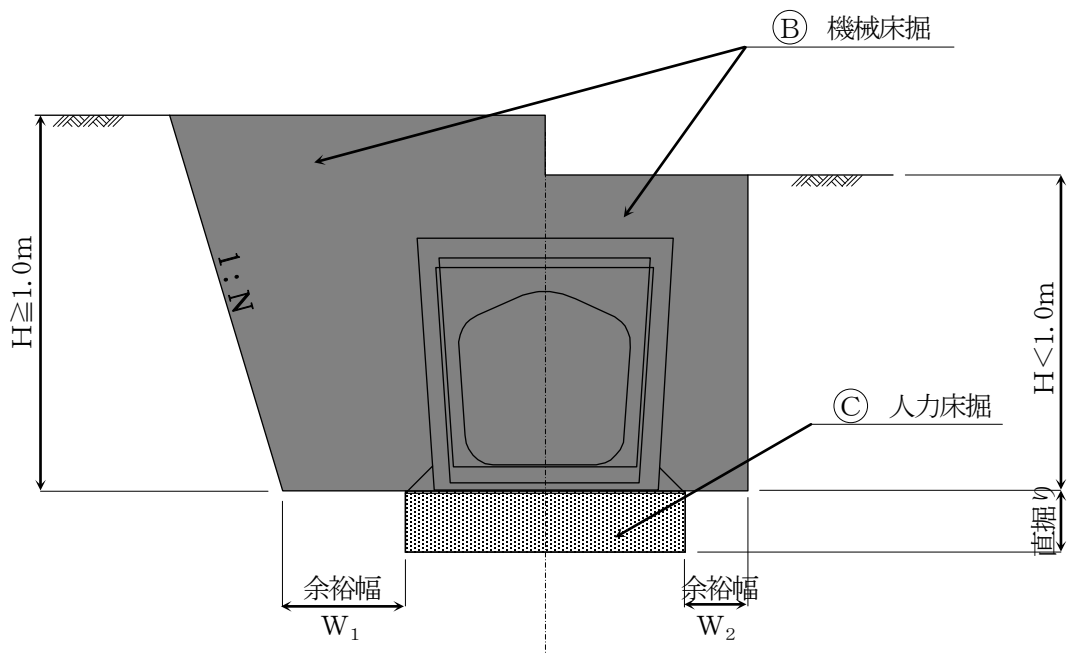
$W_2=0.20\text{m}$

掘削工：範囲 (B) 機械床掘

範囲 (C) 直掘りで人力床掘 …… 砕石基礎 (クラッシュラン 40~0) 0.15m

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

カ 横断暗渠



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照。

余裕幅： $W_1=0.20\text{m}$

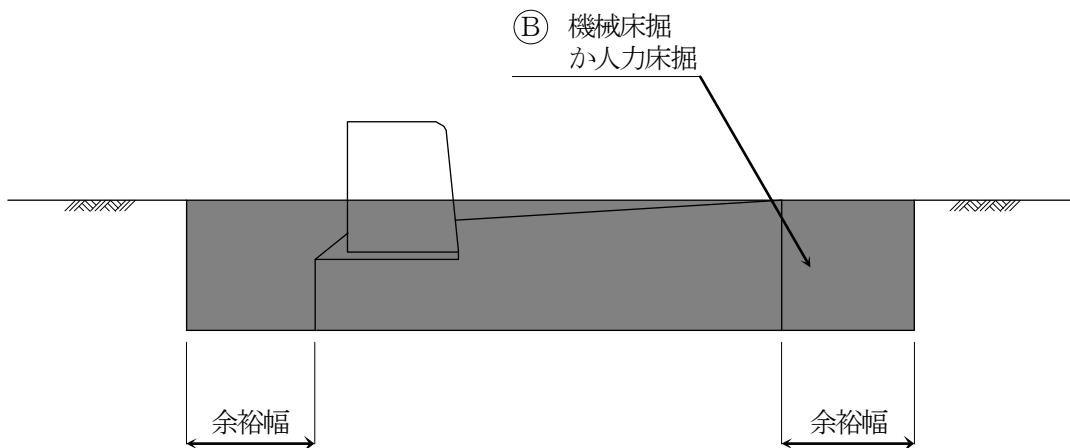
$W_2=0.10\text{m}$

掘削工：範囲 (B) 機械床掘

範囲 (C) 直掘りで人力床掘 …… 砕石基礎 (クラッシュラン 40~0) 0.10m

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

キ L形側溝



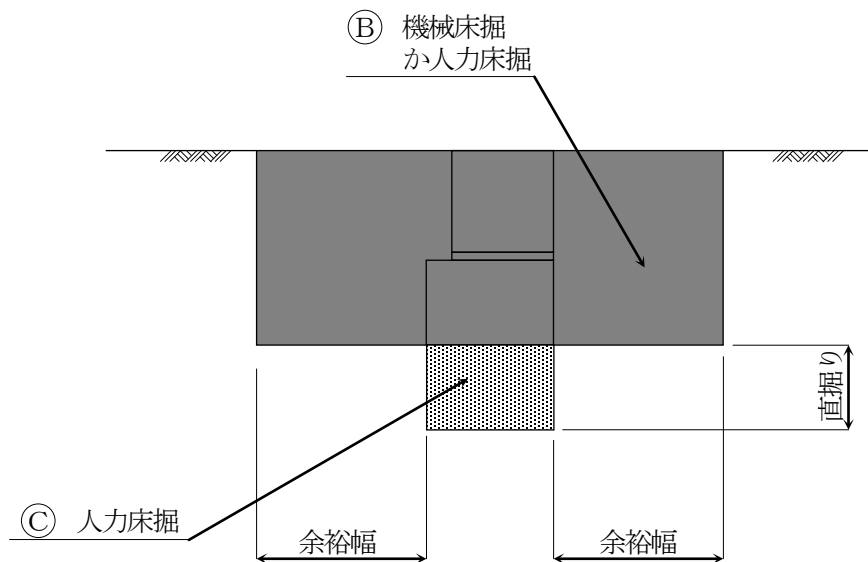
余裕幅：0.20m

掘削工：範囲㊸は、施工条件により機械床掘も人力床掘も考えられる。

(注) 構造物下面に基礎碎石を施工する場合は、余裕幅を設けず、人力床掘とする。

埋戻し工：人力（タンパは用いない）

ク 地先境界石、植樹ます



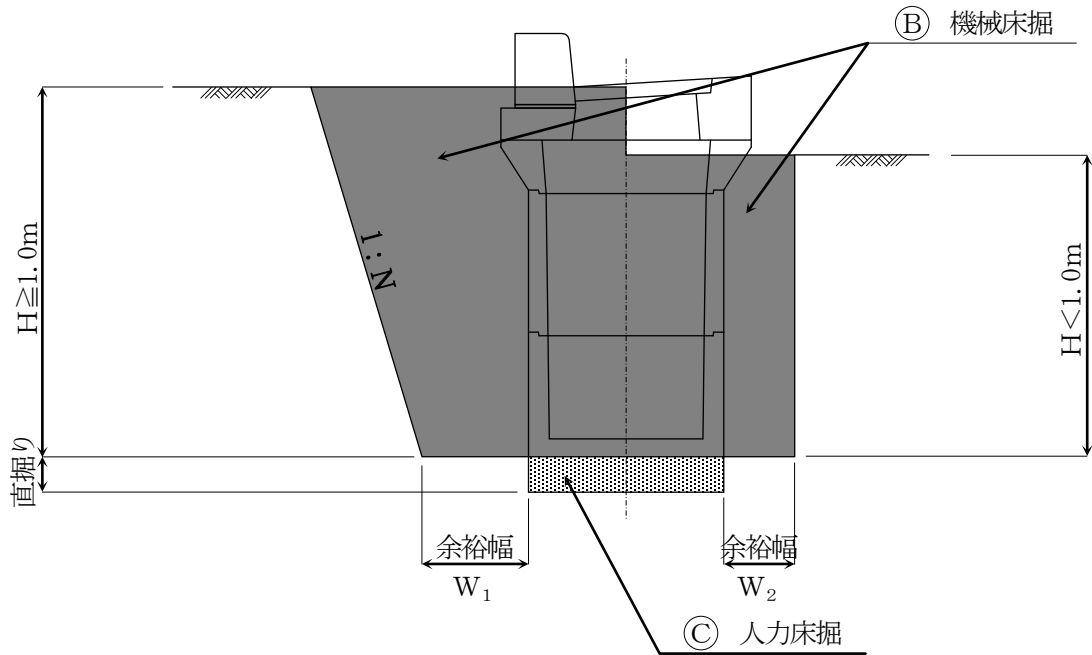
余裕幅：0.20m

掘削工：範囲㊸は、人力床掘（単独ケースのみで、他構造物と同時に掘削の場合は、機械床掘も考えられる。

範囲㊹は、直掘りで人力床掘・・・ 碎石基礎（クラッシュラン 40～0）0.10m

埋戻し工：人力（タンパは用いない）

ケ 雨水樹



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照

余裕幅： $W_1=0.30\text{m}$

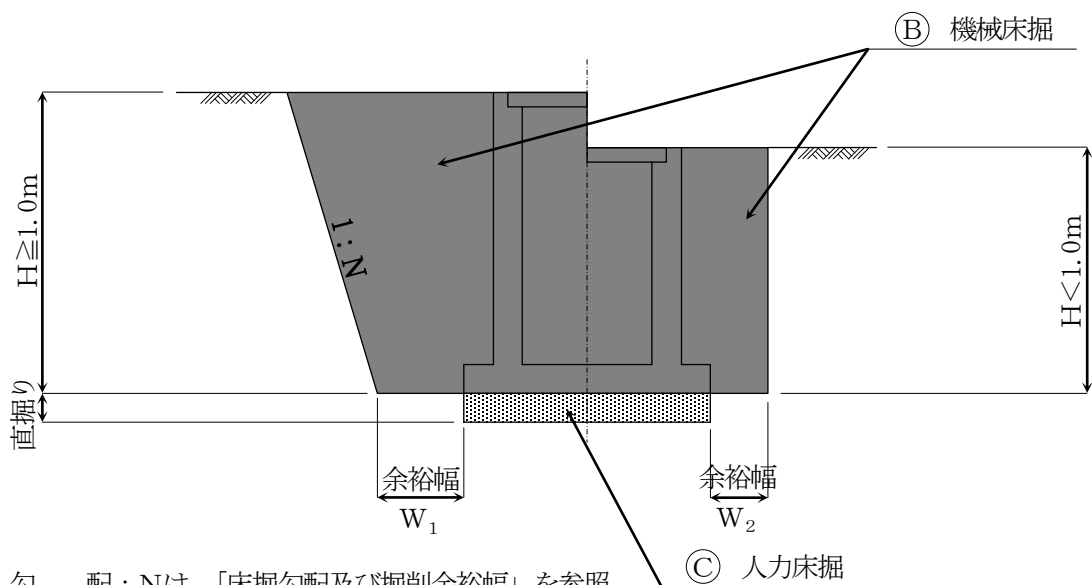
$W_2=0.20\text{m}$

掘削工：範囲 (B) 機械床掘

範囲 (C) 直掘りで人力床掘 …… 砕石基礎（クラッシュラン 40~0）0.10m

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

コ 集水樹



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照

余裕幅： $W_1=0.50\text{m}$

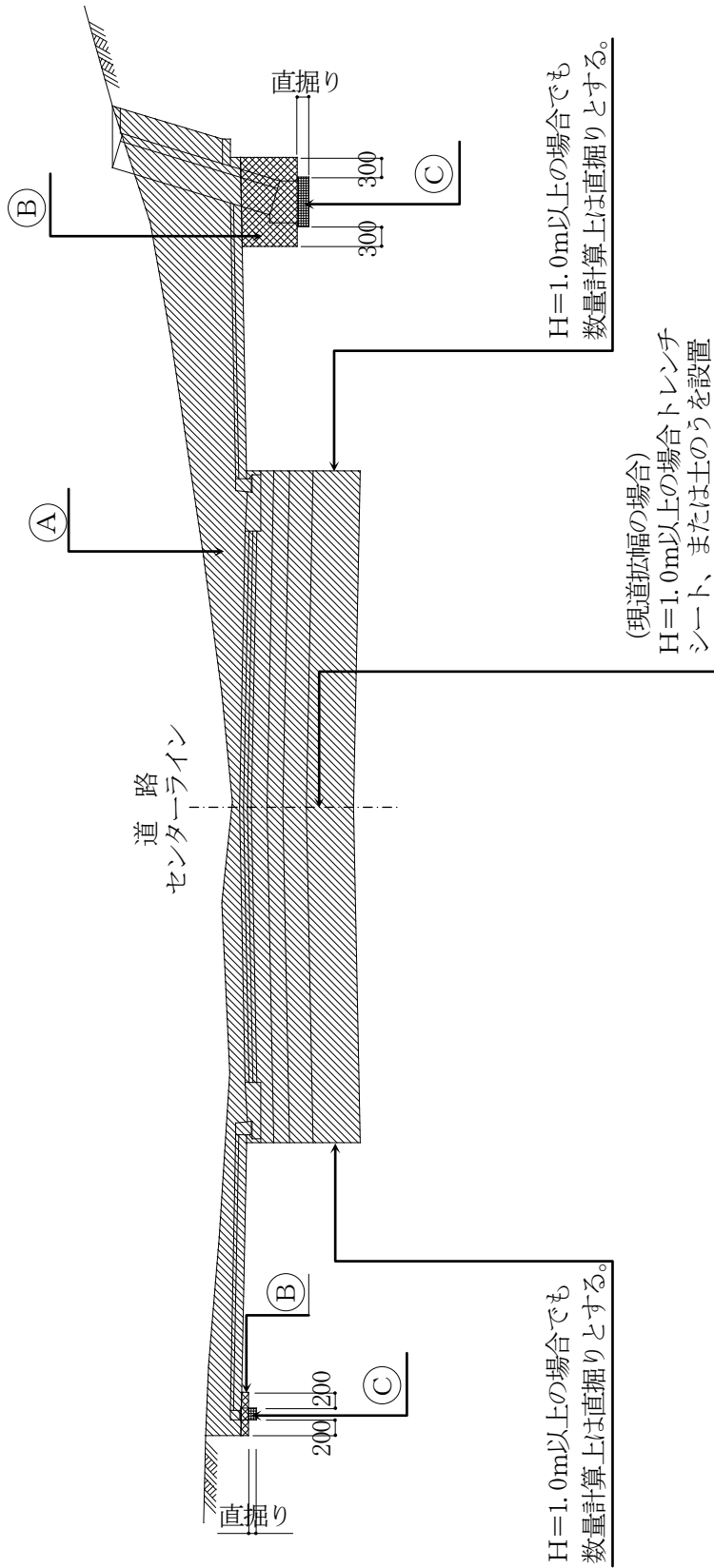
$W_2=0.30\text{m}$

掘削工：範囲 (B) 機械床掘

範囲 (C) 直掘りで人力床掘 …… 砕石基礎（クラッシュラン 40~0）0.10m

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

(3) 道路土工参考図



勾配：Nは「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照。

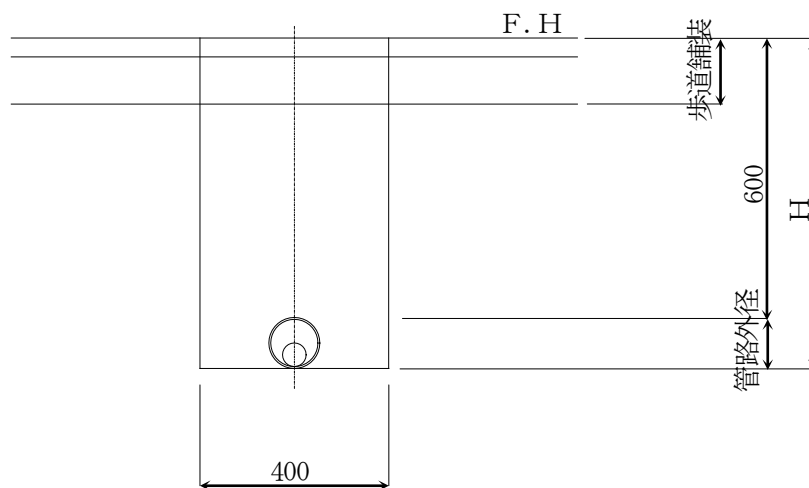
- 掘削工：  
 ① 機械掘削  
 ② 機械未掘  
 ③ 人力未掘 (直掘り)

埋戻し工：「埋戻し」を参照。

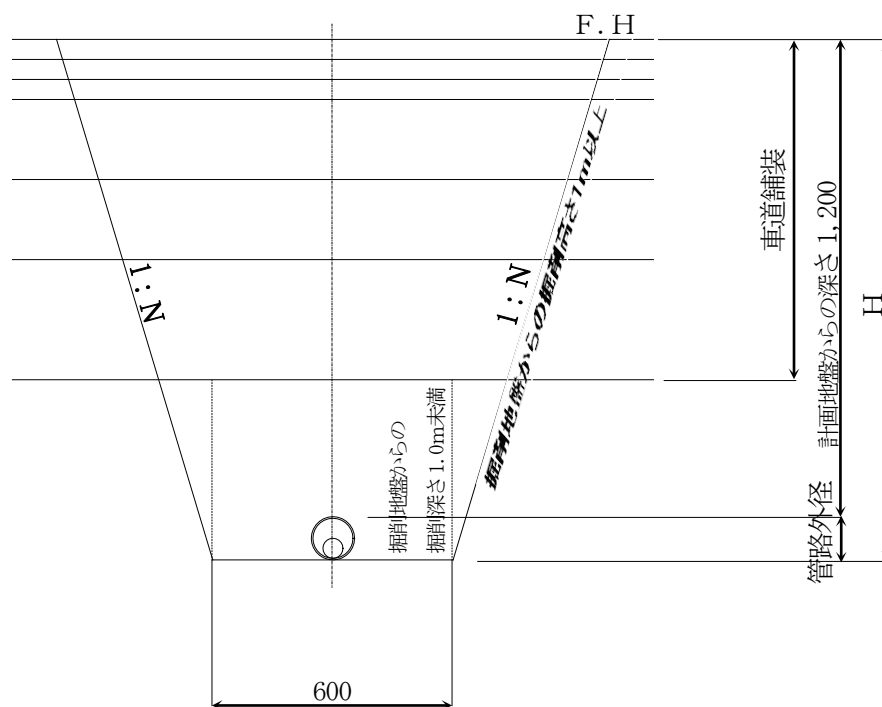
注) 但し、掘削深さが浅い場合 (L形側溝、地先境界石等) の埋戻しには、タンパを用いない。

(4) 照明管路掘削図

ア 歩道



イ 車道



勾配：Nは、「床掘勾配及び掘削余裕幅」を参照

掘削工：機械床掘

埋戻し工：「埋戻し工」を参照

## 1-2-2 埋戻工

### 1 適用

構造物の築造及び撤去後の床掘り部における埋戻しに適用する。

### 2 数量算出項目

埋戻し、タンパ締固めの土量を区分ごとに算出する。

### 3 区分

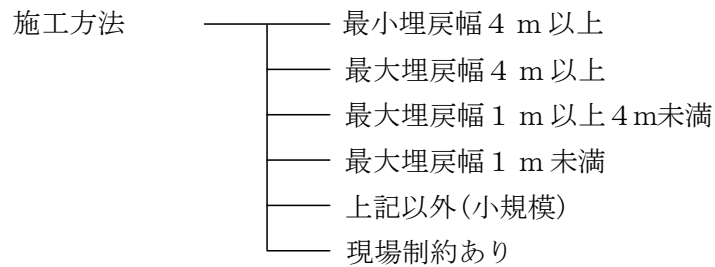
区分は、施工方法、土質区分、締固めの有無とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工方法	土質区分	締固めの有無	単位	数量	備考
埋戻し		○	○	○	m <sup>3</sup>		
タンパ締固め					m <sup>3</sup>		

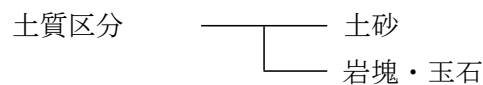
(注) 土量は、締固め後の土量である。

#### (2) 施工方法区分 施工方法による区分は、以下のとおりとする。

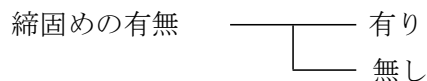


施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

#### (3) 土質区分 土質区分による区分は、以下のとおりとする。



#### (4) 締固めの有無区分 締固めの有無による区分は、以下のとおりとする。



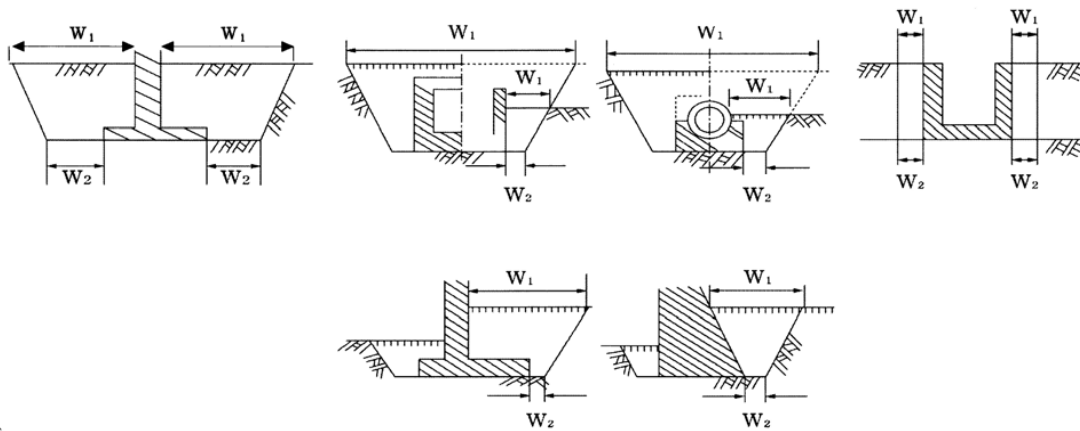
#### 4 数量算出方法

数量の算出は、下記の方法によるものとする。

施工方法

施工方法
最小埋戻幅 4 m以上
最大埋戻幅 4 m以上
最大埋戻幅 1 m 以上 4m未満
最大埋戻幅 1 m未満
上記以外(小規模)
現場制約あり

- (注) 1 施工方法「上記以外(小規模)」とは、1箇所当たりの施工土量が 100m<sup>3</sup> 程度まで、又は平均施工幅 1m 未満の床掘りに伴う埋戻しで、「1箇所当り」とは、目的物1箇所当りであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。
- 2 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。
- 3 埋戻幅  
 最大埋戻幅：下図における埋戻幅(W<sub>1</sub>)  
 最小埋戻幅：下図における埋戻幅(W<sub>2</sub>)  
 なお、擁壁等で前背面の最大埋戻幅が異なる場合は、広い方の領域を基準とし、狭い方も同一条件区分を適用するものとする。
- 4 最小埋戻幅が 4m 以上の場合は、最大埋戻幅に関係なく、最小埋戻幅 4m 以上を適用する。



### 1-3 構造物の数量から控除しないもの

構造物中の鉄筋・水抜き穴等で、その容積又は面積が僅少なものは、構造物の数量から控除しなくてよいものとする。

次に掲げる種類の容積または面積は、原則として構造物の数量から控除しなくてよいこととする。

- 1 コンクリート中の鉄筋・鋼矢板・土留材等
- 2 コンクリート中の基礎杭頭
- 3 コンクリート中の支承座面の箱抜
- 4 床版コンクリート中の主桁上フランジ
- 5 鋼材中のボルト孔及び隅欠き
- 6 コンクリート構造物の面取り及び水切
- 7 コンクリート構造物の伸縮継目の間隔及び止水板
- 8 コンクリート構造物内の内径30 c m以下の管類、水抜孔等
- 9 基礎材（均しコン含む）中の径30 c m以下の杭及び洞木
- 10 法沿い堅排水工、地下排水工等の容積及びこれに類似のもの
- 11 コンクリート構造物中のモルタル注入孔及び埋込金具等の容積
- 12 舗装工、床版工中の1箇所1.0 m<sup>2</sup>未満の建造物
- 13 盛土中で現地盤線以上の断面積が1.0 m<sup>2</sup>未満の建造物
- 14 ガードレール、ガードパイプ等防護柵の支柱の箱抜き
- 15 その他面積又は体積が前項に示す値以下で全体数量に及ぼす影響が僅少なもの  
ただし、現場打杭の場合のフーチングコンクリートについては、控除する。
- 16 上記1～15に準ずるものと判断されるもの  
(国土交通省国土技術政策総合研究所「土木工事数量算出要領（案）」1章 基本事項)

**舗装工等の人力施工（小規模な施工）は控除するものとし、次表を参考とする。**

(参考) 道路占用物件の舗装工等控除面積

種 別		車道部	歩道部	備 考
下水道人孔 (φ600)		0.80m <sup>2</sup> /1カ所 ※(0.50m <sup>2</sup> /1カ所)	0.50m <sup>2</sup> /1カ所	
水道人孔		0.50m <sup>2</sup> /1カ所	0.50m <sup>2</sup> /1カ所	
東電人孔		0.80m <sup>2</sup> /1カ所	0.80m <sup>2</sup> /1カ所	
接 続 柵 (タイプ1)		0.22m <sup>2</sup> /1カ所	0.22m <sup>2</sup> /1カ所	
灯柱基礎	8 mポール	0.36m <sup>2</sup> /1カ所	0.36m <sup>2</sup> /1カ所	
	10 mポール	0.64m <sup>2</sup> /1カ所	0.64m <sup>2</sup> /1カ所	
ガードレール基礎 (H=40 c m)		0.16m <sup>2</sup> /1カ所	0.16m <sup>2</sup> /1カ所	旧道路構造物標準図集による
横断防止柵基礎		0.09m <sup>2</sup> /1カ所	0.09m <sup>2</sup> /1カ所	

- (注) 1 **電柱、ガス・水道弁は、控除しなくてよいこととする。**  
 2 特殊な人孔、基礎は、各企業者等で調査した上で控除面積を決定すること。  
 (有効数字：小数点以下2位、3位四捨五入)  
 3 **下水道人孔の車道部 ※(0.50m<sup>2</sup>/1カ所) については、アスファルト舗装（瀝青安定処理を含む）に適用する。（路盤工を伴う場合は適用しない。）**  
 4 **体積を控除する場合は、上記面積と掘削深さ又は構造物高さの積とする。**  
 5 **舗装版取壊し（障害等有り）及び路盤掘削（現場制約あり）は控除する。**  
 6 **路盤の敷均し（小型バックホウ及び人力による施工）及びアスファルト混合物の敷均し（人力の施工）は控除する。**

1-4 道路構造物標準図表におけるとりこわし工の体積

1 単位当りコンクリートとりこわし体積集計表

(1) U形側溝・U形側溝（補強付）

単位：m<sup>3</sup>/10m

規 格	ふた種別 及び有無	補強コンク リート有無	二次製品部 10m当り体積		場所打部 10m当り体積			合 計
			側 溝 部	ふ た 部	モルタル部	基 礎 部	補 強 部	
180	無	無	0.236	—	0.034	0.125	—	0.395
	1種			0.100				0.495
	2種			0.224				0.619
240	無	無	0.382	—	0.051	0.165	—	0.598
	1種	無		0.149				0.747
	2種	無		0.330				0.675
		有					1.603	
300B	無	無	0.551	—	0.060	0.200	—	0.811
	1種	無		0.244				1.055
	2種	無		0.404				0.793
		有					2.008	
360B	無	無	0.693	—	0.066	0.230	—	0.989
	1種			0.305				1.294
	2種			0.468				1.457
450	無	無	0.929	—	0.092	0.280	—	1.301
	1種			0.403				1.704
	2種			0.692				1.993
600	無	無	1.453	—	0.108	0.370	—	1.931
	1種			0.571				2.502
	2種			1.139				3.070

(2) 道路用鉄筋コンクリート側溝

単位：m<sup>3</sup>/10m

規 格		二次製品部 10m当り体積		場所打部 10m当り体積		合 計	備 考
		側 溝 部	ふ た 部	モルタル部	基 礎 部		
1 種	250	0.566	0.239	0.060	0.225	1.090	
	300A	0.667	0.276	0.064	0.250	1.257	
	300B	0.816				1.406	
	300C	0.977				1.567	
	400A	0.884	0.390	0.074	0.300	1.648	
	400B	1.049				1.813	
	500A	1.151	0.538	0.084	0.350	2.123	
	500B	1.330				2.302	
2 種	250	0.639	0.311	0.070	0.230	1.250	
	300A	0.813	0.376	0.076	0.260	1.525	
	300B	0.940		0.090		1.666	
	300C	1.158		0.088		1.882	
	400A	1.049	0.545	0.100	0.310	2.004	
	400B	1.274		0.098		2.227	
	500A	1.427	0.757	0.111	0.365	2.660	
	500B	1.743		0.109		2.974	

## (3) 横断暗渠

単位：m<sup>3</sup>/10m

規 格	二次製品部 10m当り体積	場所打部 10m当り体積		合 計	備 考	
		モルタル部	基 礎 部			
タイプ1	240用	0.648	0.056	0.410	1.114	
	300用	0.954	0.062	0.470	1.486	
	360用	1.245	0.067	0.520	1.832	
	450用	1.904	0.079	0.640	2.623	
	600用	3.227	0.094	0.790	4.111	
タイプ2	240用	0.648	0.065	0.500	1.213	
	300用	0.954	0.070	0.550	1.574	
	360用	1.245	0.077	0.620	1.942	
	450用	1.904	0.087	0.720	2.711	
	600用	3.227	0.103	0.880	4.210	

## (4) 現場打側溝

単位：m<sup>3</sup>/10m

規 格		H (mm)	二次製品部 10m当り体積	場所打部 10m当り体積	合 計	備 考
歩道部	240	300	0.149	1.489	1.638	
		400		1.748	1.897	
		500		2.008	2.157	
	300	400	0.244	2.010	2.254	
		500		2.290	2.534	
		600		2.569	2.813	
	360	400	0.305	2.168	2.473	
		500		2.448	2.753	
		600		2.727	3.032	
	450	500	0.403	2.943	3.346	
		600		3.263	3.666	
	車道部	240	300	0.330	1.711	2.041
400			1.991		2.321	
300		400	0.404	2.632	3.036	
		500		2.972	3.376	
360		400	0.468	2.734	3.202	
		500		3.074	3.542	
450		500	0.692	4.213	4.905	
		600		4.632	5.324	

## (5) L形側溝

単位：m<sup>3</sup>/10m

規格	二次製品部 10m当り体積	場所打部10m当り体積			合計	備考	
		エプロン部	モルタル部	調整C o 部			
タイプ1	0.480	1.197	0.031	—	1.708		
タイプ2	CBR3~4 CBR6~12	0.480	1.571	0.031	0.800	2.882	
					0.400	2.482	
タイプ3	0.583	1.202	0.031	—	1.816		
タイプ4	CBR3~4 CBR6~12	0.583	1.579	0.031	0.805	2.998	
					0.403	2.596	
タイプ5	0.319	1.158	0.027	—	1.504	タイプ1	
タイプ6	0.180	1.056	0.012	—	1.248	タイプ3	
タイプ7	CBR3~4 CBR6~12	0.180	1.366	0.012	0.620	2.178	タイプ4
					0.310	1.868	
タイプ8	0.319	0.965	0.027	—	1.311	タイプ5	
タイプ9	0.180	0.856	0.012	—	1.048	タイプ6	
—		0.319	1.517	0.027	0.765	2.625	タイプ2 (CBR3~4)
					0.383	2.246	タイプ2 (CBR6~12)
タイプ1	0.140	1.197	0.031	—	1.368		
タイプ2	CBR3~4 CBR6~12	0.140	1.571	0.031	0.800	2.542	
					0.400	2.142	
タイプ3	0.143	1.202	0.031	—	1.376		
タイプ4	CBR3~4 CBR6~12	0.143	1.579	0.031	0.805	2.558	
					0.403	2.156	
タイプ5	0.116	1.158	0.027	—	1.301	タイプ1	
タイプ6	0.084	1.056	0.012	—	1.152	タイプ3	
タイプ7	CBR3~4 CBR6~12	0.084	1.366	0.012	0.620	2.082	タイプ4
					0.310	1.772	
タイプ8	0.116	0.965	0.027	—	1.108	タイプ5	
タイプ9	0.084	0.856	0.012	—	0.952	タイプ6	
—		0.116	1.517	0.027	0.765	2.425	タイプ2 (CBR3~4)
					0.383	2.043	タイプ2 (CBR6~12)
タイプ1	0.198	1.197	0.031	—	1.426		
タイプ2	CBR3~4 CBR6~12	0.198	1.571	0.031	0.800	2.600	
					0.400	2.200	
タイプ3	0.203	1.202	0.031	—	1.436		
タイプ4	CBR3~4 CBR6~12	0.203	1.579	0.031	0.805	2.618	
					0.403	2.216	
タイプ5	0.164	1.158	0.027	—	1.349	タイプ1	
タイプ6	0.120	1.056	0.012	—	1.188	タイプ3	
タイプ7	CBR3~4 CBR6~12	0.120	1.366	0.012	0.620	2.118	タイプ4
					0.310	1.808	
タイプ8	0.164	0.965	0.027	—	1.156		
タイプ9	0.120	0.856	0.012	—	0.988		
—		0.164	1.517	0.027	0.765	2.473	タイプ2 (CBR3~4)
					0.383	2.091	タイプ2 (CBR6~12)

(注) 1 規格のタイプ1~9は、旧道路構造物標準図集（平成7年4月版）の名称。

2 平成13年4月版以降のタイプ1~6は備考欄を参照。

単位：m3/10本

規格	二次製品部10 本当り体積	場所打部10本当り体積			合計	備考
		エプロン部	モルタル部	調整C o部		
歩道 すりつけ 1個 使い	タイプ1	0.188	0.725	0.019	—	0.932
	タイプ2	0.188	0.952	0.019	0.485	1.644
					0.242	1.401
	タイプ3	0.220	0.728	0.019	—	0.967
	タイプ4	0.220	0.957	0.019	0.488	1.684
					0.244	1.440
	タイプ5	0.132	0.702	0.016	—	0.850
	タイプ6	0.080	0.640	0.007	—	0.727
	タイプ7	0.080	0.828	0.007	0.376	1.291
					0.188	1.103
タイプ8	0.132	0.585	0.016	—	0.733	
タイプ9	0.080	0.519	0.007	—	0.606	
歩道 すりつけ 2個 使い	タイプ1	0.375	1.451	0.038	—	1.864
	タイプ2	0.375	1.904	0.038	0.970	3.287
					0.485	2.802
	タイプ3	0.440	1.457	0.038	—	1.935
	タイプ4	0.440	1.914	0.038	0.976	3.368
					0.488	2.880
	タイプ5	0.264	1.403	0.033	—	1.700
	タイプ6	0.160	1.280	0.015	—	1.455
	タイプ7	0.160	1.656	0.015	0.751	2.582
					0.376	2.207
タイプ8	0.264	1.170	0.033	—	1.467	
タイプ9	0.160	1.037	0.015	—	1.212	
乗入れ すりつけ 1個 使い	タイプ1	0.205	0.725	0.019	—	0.949
	タイプ2	0.205	0.952	0.019	0.485	1.661
					0.242	1.418
	タイプ3	0.238	0.728	0.019	—	0.985
	タイプ4	0.238	0.957	0.019	0.488	1.702
					0.244	1.458
	タイプ5	0.147	0.702	0.016	—	0.865
	タイプ6	0.091	0.640	0.007	—	0.738
	タイプ7	0.091	0.828	0.007	0.376	1.302
					0.188	1.114
タイプ8	0.147	0.585	0.016	—	0.748	
タイプ9	0.091	0.519	0.007	—	0.617	
乗入れ すりつけ 2個 使い	タイプ1	0.411	1.451	0.038	—	1.900
	タイプ2	0.411	1.904	0.038	0.970	3.323
					0.485	2.838
	タイプ3	0.477	1.457	0.038	—	1.972
	タイプ4	0.477	1.914	0.038	0.976	3.405
					0.488	2.917
	タイプ5	0.293	1.403	0.033	—	1.729
	タイプ6	0.182	1.280	0.015	—	1.477
	タイプ7	0.182	1.656	0.015	0.751	2.604
					0.376	2.229
タイプ8	0.293	1.170	0.033	—	1.496	
タイプ9	0.182	1.037	0.015	—	1.234	

## (6) 植樹ます (単独)

単位：m<sup>3</sup>/1ます

規 格	二次製品部1ます当り体積	場所打部1ます当り体積		合 計	備 考
		モルタル部	基 礎 部		
1号ブロック (L=900mm) 使用	0.119	0.007	0.086	0.212	
2号ブロック (L=600mm) 使用	0.103	0.006	0.074	0.183	

## (7) 植樹帯縁石工

規 格	二次製品部体積	場 所 打 部 体 積		合 計	備 考	
		モルタル部	基 礎 部			
標準部10m当り	0.269	0.015	0.200	0.484	単位：m <sup>3</sup> /10m	
端部 1箇所 当り	1号ブロック (L=900mm) 使 用	0.035	0.002	0.025	0.062	単位：m <sup>3</sup> /箇所
	2号ブロック (L=600mm) 使 用	0.027	0.001	0.019	0.047	単位：m <sup>3</sup> /箇所

## (8) 地先境界ブロック

単位：m<sup>3</sup>/10m

規 格	二次製品部体積	場 所 打 部 体 積		合 計	備 考
		モルタル部	基 礎 部		
標準部10m当り	0.144	0.012	0.150	0.306	

## (9) 特殊集水柵 (MS)

単位：m<sup>3</sup>/箇所

二次製品部1箇所当り				場所打部1箇所当り		合 計 (m <sup>3</sup> )	備 考
ふ た		縁 石		モルタル部	軀 体 部		
参考重量(kg)	参考体積(m <sup>3</sup> )	参考重量(kg)	参考体積(m <sup>3</sup> )	体積 (m <sup>3</sup> )	体積 (m <sup>3</sup> )		
45	0.019	56	0.024	0.003	0.27	0.316	

## (10) 第一種及び第二種集水柵

単位：m<sup>3</sup>/箇所

種 別	二次製品部1箇所当り		場所打部1箇所当り 体積 (m <sup>3</sup> )	合 計 (m <sup>3</sup> )	備 考
	参考重量(kg)	参考体積(m <sup>3</sup> )			
第一種集水柵	128	0.054	0.94	0.994	
第二種集水柵	258	0.110	2.10	2.210	

## (11) 横浜市型雨水柵 (対象 L 型側溝種別は平成 13 年 4 月版より前の標準図集の規格)

単位: m<sup>3</sup>/10 箇所

雨水柵種別	対象 L 型側溝種別	二次製品部 10 箇所当り重量及び体積							場所付部 10 箇所当り体積 (敷均しE/E外) (m <sup>3</sup> )	合計 (m <sup>3</sup> )	
		歩車道境界ブロック部体積 (m <sup>3</sup> )	製品重量					体積 (m <sup>3</sup> )			
			縁塊	上ブロック	中ブロック	下ブロック	合計				
標準部	タイプ 1 雨水柵	タイプ 1	890	600	740	880	3110	1.323	0.288	0.012	1.623
		タイプ 2							0.350	0.013	1.686
		タイプ 3							0.192	0.010	1.525
		タイプ 4							0.108	0.007	1.260
		タイプ 5							0.192	0.010	1.347
	タイプ 2 雨水柵	タイプ 6	570	500	740	880	2690	1.145	0.108	0.007	1.260
		タイプ 7							0.192	0.010	1.347
		タイプ 8							0.108	0.007	1.260
		タイプ 9							0.084	0.012	1.419
歩道平担部	タイプ 1 雨水柵	タイプ 1	890	600	740	880	3110	1.323	0.084	0.012	1.419
		タイプ 2							0.086	0.013	1.422
		タイプ 3							0.070	0.010	1.403
		タイプ 4							0.050	0.007	1.202
		タイプ 5							0.070	0.010	1.225
	タイプ 2 雨水柵	タイプ 6	570	500	740	880	2690	1.145	0.050	0.007	1.202
		タイプ 7							0.070	0.010	1.225
		タイプ 8							0.050	0.007	1.202
		タイプ 9							0.119	0.012	1.454
乗入平担部	タイプ 1 雨水柵	タイプ 1	890	600	740	880	3110	1.323	0.119	0.012	1.454
		タイプ 2							0.122	0.013	1.458
		タイプ 3							0.099	0.010	1.432
		タイプ 4							0.072	0.007	1.224
		タイプ 5							0.099	0.010	1.254
	タイプ 2 雨水柵	タイプ 6	570	500	740	880	2690	1.145	0.072	0.007	1.224
		タイプ 7							0.099	0.010	1.254
		タイプ 8							0.072	0.007	1.224
		タイプ 9							0.186	0.012	1.521
歩道摺付け 1 個使い	タイプ 1 雨水柵	タイプ 1	890	600	740	880	3110	1.323	0.186	0.012	1.521
		タイプ 2							0.218	0.013	1.554
		タイプ 3							0.131	0.010	1.464
		タイプ 4							0.079	0.007	1.231
		タイプ 5							0.131	0.010	1.286
	タイプ 2 雨水柵	タイプ 6	570	500	740	880	2690	1.145	0.079	0.007	1.231
		タイプ 7							0.131	0.010	1.286
		タイプ 8							0.079	0.007	1.231
		タイプ 9							0.203	0.012	1.538
乗入摺付け 1 個使い	タイプ 1 雨水柵	タイプ 1	890	600	740	880	3110	1.323	0.203	0.012	1.538
		タイプ 2							0.236	0.013	1.572
		タイプ 3							0.145	0.010	1.478
		タイプ 4							0.090	0.007	1.242
		タイプ 5							0.145	0.010	1.300
	タイプ 2 雨水柵	タイプ 6	570	500	740	880	2690	1.145	0.090	0.007	1.242
		タイプ 7							0.145	0.010	1.300
		タイプ 8							0.090	0.007	1.242
		タイプ 9							0.090	0.007	1.242

## (12) 横浜市型雨水枡 (対象 L 型側溝種別は平成 13 年 4 月版以降の標準図集の規格)

単位：m<sup>3</sup>/10 箇所

雨水枡種別	対象 L 型側溝種別	二次製品部 10 箇所当り重量及び体積							場所付部 10 箇所当り体積 (敷均し用) (m <sup>3</sup> )	合計 (m <sup>3</sup> )	
		歩車道境界ブロック部体積 (m <sup>3</sup> )	製品重量					体積 (m <sup>3</sup> )			
			縁塊	上ブロック	中ブロック	下ブロック	合計				
標準部	タイプ 1 雨水枡	タイプ 1	0.192	890	600	740	880	3110	1.323	0.010	1.525
		タイプ 2									
	タイプ 2 雨水枡	タイプ 3	0.108	570	500	740	880	2690	1.145	0.010	1.260
		タイプ 4									
		タイプ 5									
		タイプ 6									
歩道平坦部	タイプ 1 雨水枡	タイプ 1	0.070	890	600	740	880	3110	1.323	0.010	1.403
		タイプ 2									
	タイプ 2 雨水枡	タイプ 3	0.050	570	500	740	880	2690	1.145	0.010	1.202
		タイプ 4									
		タイプ 5									
		タイプ 6									
乗入平坦部	タイプ 1 雨水枡	タイプ 1	0.099	890	600	740	880	3110	1.323	0.010	1.432
		タイプ 2									
	タイプ 2 雨水枡	タイプ 3	0.072	570	500	740	880	2690	1.145	0.010	1.224
		タイプ 4									
		タイプ 5									
		タイプ 6									
歩道摺付け 1 個使い	タイプ 1 雨水枡	タイプ 1	0.131	890	600	740	880	3110	1.323	0.010	1.464
		タイプ 2									
	タイプ 2 雨水枡	タイプ 3	0.079	570	500	740	880	2690	1.145	0.010	1.231
		タイプ 4									
		タイプ 5									
		タイプ 6									
乗入摺付け 1 個使い	タイプ 1 雨水枡	タイプ 1	0.145	890	600	740	880	3110	1.323	0.010	1.478
		タイプ 2									
	タイプ 2 雨水枡	タイプ 3	0.090	570	500	740	880	2690	1.145	0.010	1.242
		タイプ 4									
		タイプ 5									
		タイプ 6									

## (13) 性能規定型雨水枡 (横浜市下水道設計標準図 (平成 26 年 5 月版) から変更)

単位：m<sup>3</sup>/10 箇所

種別 (タイプ)	二次製品部 10 箇所当り重量及び体積									
	製品重量 (kg)						製品体積 (m <sup>3</sup> )			
	縁石	縁塊	上ブロック	中ブロック	下ブロック	合計	縁石	縁塊	上中下ブロック	合計
タイプ 1 - A	420	1020	600	740	880	3660	0.183	0.355 (0.338)	0.930	1.468 (1.451)
タイプ 1 - B	590	1040	600	740	880	3850	0.280	0.378 (0.361)	0.930	1.588 (1.571)
タイプ 2	230	570	500	740	880	2920	0.099	0.207 (0.190)	0.890	1.196 (1.179)

( ) 内の数値は排水性舗装用を示す。

2. 有筋・無筋の仕分けについて

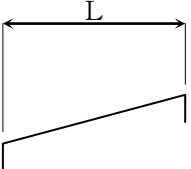
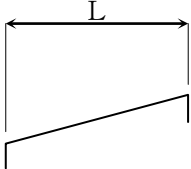
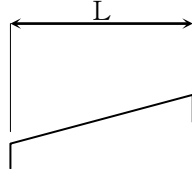
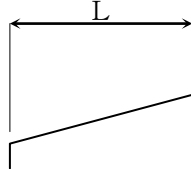
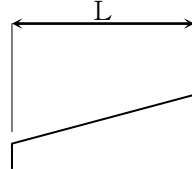
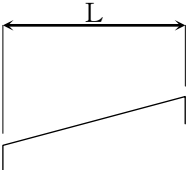
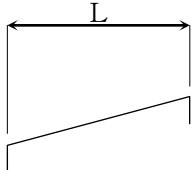
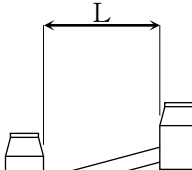
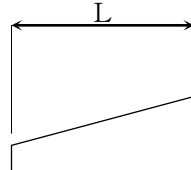
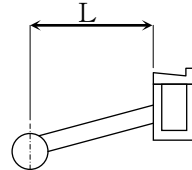
無筋扱い	有筋扱い
歩車道境界ブロックA, B, C	角型マンホール床版
特殊歩車道境界ブロックA, B, C	円型マンホール床版第1種～第5種
歩車道境界反射ブロックA, B, C	鉄筋コンクリート組立土止め900～1200(くい)
両面歩車道ブロックH-250～350	プレキャストコンクリート擁壁
地先境界ブロックA, B, C	プレキャストボックスカルバート
公園ブロック	法枠ブロック
並木柵及び緑地帯用コンクリートブロック	井桁ブロック
水抜き用特殊ブロック(塵除け金具なし)	
水抜き用特殊ブロック(塵除け金具付)	
コンクリートL型250	
神奈川県特殊歩車道境界ブロック	
中央分離帯ブロック(一体型, 分離型)	
コンクリート石標	
鉄筋コンクリートU型U-150～U-600	
鉄筋コンクリートU型用蓋U-150～U-600(1種, 2種)	
落蓋式鉄筋コンクリートU型U-240～U-360	
組合せ暗渠ブロック180～600	
横断暗渠ブロックタイプ1, 2	
鉄筋コンクリートL型250～350	
鉄筋コンクリート特殊L型240～300	
建設省型鉄筋コンクリートL型I～III	
鉄筋コンクリートLU街渠L型タイプ1～タイプ8	
鉄筋コンクリートLU街渠LU中間ます	
鉄筋コンクリートLU街渠LU取付ます	
鉄筋コンクリート外柵	
雨水ますタイプ1～タイプ4	
U型用集水ます蓋	
下水道用マンホール側塊斜壁600～1200	
下水道用マンホール側塊片面斜壁600	
下水道用マンホール側塊直壁900～1500	
マンホール蓋受枠	
遠心力鉄筋コンクリート管(B形, NC形)	
接続汚水ますタイプ1～4	
鉄筋コンクリート組立土止め900～1200(かさ石)	
鉄筋コンクリート組立土止め900～1200(板)	
鉄筋コンクリート組立土止め900～1200(はり)	
鉄筋コンクリート組立土止め900～1200(底ばりブロック)	
街渠用甲蓋	
コンクリート平板	
コンクリート積ブロック	

(注) 1 有筋、無筋の仕分けは、「とりこわし」から「処分」まで同一の仕分けで取扱う。

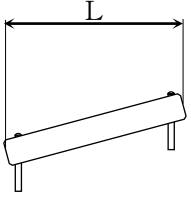
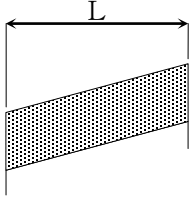
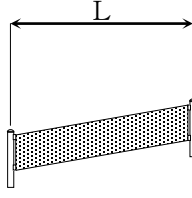
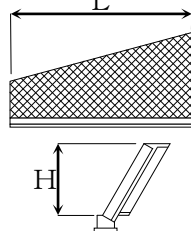
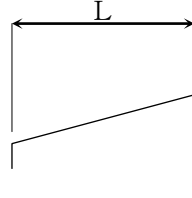
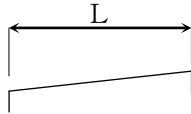
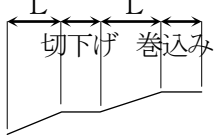
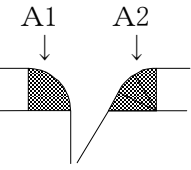
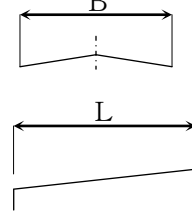
2 無筋扱いのものが、実際の処分で有筋扱いになった場合は、処分費のみ設計変更で対応し、写真及び伝票で有筋であることを確認すること。

## 第2章 寸法表示の方法

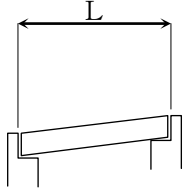
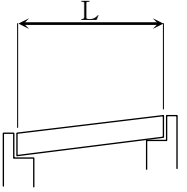
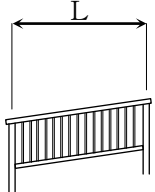
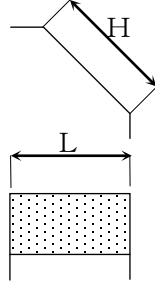
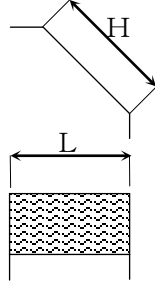
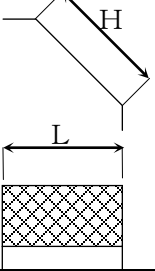
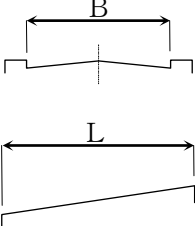
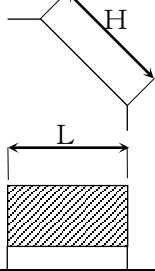
工種別一覧表①

工種 種別		道路工事延長	街 築 工			
			L 型 側 溝	地 先 境 界 石	植 樹 柵 ブ ロ ッ ク	舗 装 止 (小型重力式擁壁)
設計上の寸法の取り方	設計時	算出項目＝延長 算式＝測点間延長 (水平距離) 	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×測点間延長 	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×測点間延長 	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×水平距離 	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×水平距離 
	数量の積算上	設計時と同じ (水平距離)	水 平 距 離	水 平 距 離	水 平 距 離	水 平 距 離
設計変更時の寸法の取り方		水 平 距 離	原則は水平距離であるが、実際の算出は、柵～柵間の実測延長(斜)として良い。	原則は水平距離であるが、実際の算出は、柵～柵間の実測延長(斜)として良い。	原則は水平距離であるが、実際の算出は、柵～柵間の実測延長(斜)として良い。	水 平 距 離
工種 種別		街 築 工	排 水 施 設			
		中 央 分 離 帯	U 型 側 溝	下 水 道 管 渠	横 断 暗 渠	取 付 管
設計上の寸法の取り方	設計時	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×測点間延長 	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×水平距離 	算出項目＝延長(本数) 算式＝人孔間水平延長 －人孔部控除 	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×水平距離 	算出項目＝延長 算式＝柵～管渠間 水平延長 
	数量の積算上	水 平 距 離	水 平 距 離	水 平 距 離	水 平 距 離	算出項目＝管本数 延長は斜距離
設計変更時の寸法の取り方		原則は水平距離であるが、実際の算出は、柵～柵間の実測延長(斜)として良い。	原則は水平距離であるが、実際の算出は、柵～柵間の実測延長(斜)として良い。	水 平 距 離	原則は水平距離であるが、実際の算出は、柵～柵間の実測延長(斜)として良い。	算出項目＝管本数 延長は斜距離

工種別一覧表②

工種 種別		安 全 施 設			擁 壁 類	
		ガードレール	ネットフェンス	横断防止柵	ブロック積擁壁	重力式擁壁
設計上の寸法の取り方	設計時	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×水平距離 	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×水平距離 	算出項目＝延長 算式＝単位長さ当り数量 ×水平距離 	算出項目＝面積 算式＝垂直高×斜率 ×水平距離 	算出項目＝延長 算式＝垂直断面積 ×水平距離 
	数量の積算上	水平距離	加工費を計上し、 水平距離	水平距離	垂直高×斜率 ×水平距離	垂直断面積 ×水平距離
設計変更時の寸法の取り方		(斜距離) 実測延長	加工費を計上し、 水平距離	(斜距離) 実測延長	面積の増減に対して 施工上のミス、 誤差による増はみ ない。減に対して は減らす。	垂直断面積× 水平距離
工種 種別		擁壁等	舗 装 工			その他の道路
		逆T・L型・ 控え壁式擁壁	都 市 計 画 道 路 等			
設計上の寸法の取り方		設計時	算出項目＝面積 算式＝水平幅員×水平距離 (理論値) (理論値) 	算出項目＝面積 算式＝水平幅員×水平距離 (理論値) (理論値) 	算出項目＝面積 算式A1＝単円面積計算 A2＝三斜面積計算 (共に水平距離) 	算出項目＝面積 算式＝水平幅員 ×水平距離 
			数量の積算上	垂直断面積 ×水平距離	水平幅員×水平距離 (理論値) (理論値)	水平幅員×水平距離 (理論値) (理論値)
設計変更時の寸法の取り方		垂直断面積 ×水平距離	水平幅員×水平距離 (理論値) (理論値)	幅員は理論値で、 延長はやむを得ず 実測値により変更 する。	現場実測により変 更	実測幅員 (実測延長でも可)

工種別一覧表-③

工種 種別		橋 梁 関 係			のり面処理	
		橋 長	桁 長	高 欄	モルタル吹付	芝 張 り 工
設計上の寸法の取り方	設計時	算出項目=延長 算式=水平距離  	算出項目=延長 算式=水平距離  	算出項目=(重量)延長 算式=実測延長(斜) ×水平距離 高欄長 = 水平距離  	算出項目=面積 算式=のり長×水平距離  	算出項目=面積 算式=のり長×水平距離  
	数量の積算上	実延長	実延長	実延長	のり長 ×水平距離	のり長 ×水平距離
	設計変更時の寸法の取り方	実延長	実延長	実延長	実測値(出来形) により変更	実測値(出来形) により変更
工種 種別	のり面処理	橋面舗装		伐採面積	路上マーキング (白線, 黄線)	
	のり枠工					
設計上の寸法の取り方	設計時	算出項目=面積 算式=のり長 ×水平距離  	算出項目=面積 算式=水平幅員 ×水平距離  	算出項目=面積 算式=のり長 ×水平距離  	水平距離	
	数量の積算上	のり長 ×水平距離	水平幅員×水平距離 (理論値)(理論値)	のり長 ×水平距離	水平距離	
	設計変更時の寸法の取り方	実測値(出来形) により変更	水平幅員×水平距離 (理論値)(理論値)	のり長 ×水平距離	実距離	

## 第3章 数量計算書のまとめ方

### 3-1 数量総括表

数量総括表の表示単位及び数値は、土木工事標準積算基準書（土木工事編）第1編総則第5章数値基準の別表による。

上記以外の工種については国土交通省 国土技術政策総合研究所 総合技術政策研究センターの「土木工事数量算出要領（案）」を参照し、必要な数量についてまとめること。「土木工事数量算出要領（案）」は下記URLからダウンロードできる。

<http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/sr/suryo.htm>

### 3-2 数量計算書の数値基準

数量計算書の数値基準，表示単位は次によるものとする。

#### (1) 土工，取りこわし工

計算書名	種 別	単位	計算過程の数値	摘 要
土量（土積）計算書	断 面 積	m <sup>2</sup>	小数点以下1位	付帯構造物等小断面については小数点以下2位とする。
	平均断面積	m <sup>2</sup>	〃 2位	
	延 長	m	〃 1位	
	土 量	m <sup>3</sup>	〃 1位	但し，設計計上数量が10m <sup>3</sup> 未満は小数点以下2位
土工（整地等）面積	幅（法長）	m	小数点以下1位	
	平均幅（法長）	m	〃 2位	
	延 長	m	〃 1位	
	面 積	m <sup>2</sup>	〃 1位	但し，設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位
取りこわし数量計算書	幅又は法長	m	小数点以下2位	[断面積（m <sup>2</sup> ）は小数点以下1位]
	高又は厚	m	〃 2位	[平均断面積（m <sup>2</sup> ）は小数点以下2位]
	延 長	m	〃 1位	
	面 積	m <sup>2</sup>	〃 1位	但し，設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位
	立 積	m <sup>3</sup>	〃 1位	但し，設計計上数量が10m <sup>3</sup> 未満は小数点以下2位

#### (2) 法面工，石積（張）工，ブロック積（張）工

計算書名	種 別	単位	計算過程の数値	摘 要
法覆工及び法面処理工（法面整形，芝付，吹付）面積計算書	法 長	m	小数点以下1位	
	平 均 法 長	m	〃 2位	
	延 長	m	〃 1位	
	面 積	m <sup>2</sup>	〃 1位	但し，設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位
石積（張），ブロック積（張）面積計算書	高又は法長	m	小数点以下2位	
	平 均 法 長	m	〃 2位	
	延 長	m	〃 1位	
	面 積	m <sup>2</sup>	〃 1位	但し，設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位

## (3) コンクリート工, 型枠工, 目地工

計算書名	種 別	単 位	計算過程の数値	摘 要
コンクリート, 基礎材等の立積計算書	幅	m	小数点以下2位	[断面積 (m <sup>2</sup> ) は小数点以下2位]
	高 又 は 厚	m	" 2位	[平均断面積 (m <sup>2</sup> ) は " ]
	延 長	m	" 2位	
	立 積	m <sup>3</sup>	" 2位	但し, 設計計上数量が1 m <sup>3</sup> 未満は小数点以下3位
型枠面積計算書	幅	m	小数点以下2位	
	高	m	" 2位	
	法長又は延長	m	" 1位	
	面 積	m <sup>2</sup>	" 2位	但し, 設計計上数量が1 m <sup>2</sup> 未満は小数点以下3位
目地工面積計算書	幅	m	小数点以下2位	
	延 長	m	" 2位	
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1位	但し, 設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位

## (4) 根固め工, 捨石工, マット工, シート工

計算書名	種 別	単 位	計算過程の数値	摘 要
根固, 捨石, 間詰等の立積計算書	断 面 積	m <sup>2</sup>	小数点以下1位	
	平均断面積	m <sup>2</sup>	" 2位	
	延 長	m	" 1位	
	立 積	m <sup>3</sup>	" 1位	但し, 設計計上数量が10m <sup>3</sup> 未満は小数点以下2位
捨石均し, マット, シート等の面積計算書	幅又は法長	m	小数点以下1位	
	平均長, 法長	m	" 2位	
	延 長	m	" 1位	
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1位	但し, 設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位

## (5) 舗装工, 路盤工

計算書名	種 別	単位	計算過程の数値	摘 要
舗装及び路盤材料等の立積計算書	幅	m	小数点以下2位	
	厚	m	〃 3位	
	延 長	m	〃 2位	
	立 積	m <sup>3</sup>	〃 2位	但し, 設計計上数量が1 m <sup>3</sup> 未満は小数点以下3位
舗装工及び路盤工等の面積計算書	幅 員	m	小数点以下2位	
	平 均 幅 員	m	〃 2位	
	延 長	m	〃 2位	
	面 積	m <sup>2</sup>	〃 1位	但し, 設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位

## (6) 植栽工, 除草工

計算書名	種 別	単位	計算過程の数値	摘 要
植栽, 除草面積計算書	幅又は法長	m	小数点以下1位	
	平均幅, 法長	m	〃 2位	
	延 長	m	〃 1位	
	面 積	m <sup>2</sup>	〃 1位	但し, 設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位

## (7) 足場工, 支保工, 仮締切工

計算書名	種 別	単位	計算過程の数値	摘 要
足場工数量計算書	高	m	小数点以下1位	
	延 長	m	〃 1位	
	掛 平 方 米	掛m <sup>2</sup>	〃 1位	但し, 設計計上数量が10 掛m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位
支保工数量計算書	幅	m	小数点以下1位	
	高	m	〃 1位	
	延 長	m	〃 1位	
	空 立 方 米	空m <sup>3</sup>	〃 1位	但し, 設計計上数量が10 空m <sup>3</sup> 未満は小数点以下2位
仮締切工数量計算書	幅	m	小数点以下1位	[断面積 (m <sup>2</sup> ) は小数点以下2位]
	高	m	〃 1位	[平均断面積 (m <sup>2</sup> ) は小数点以下2位]
	延 長	m	〃 1位	
	面 積	m <sup>2</sup>	〃 1位	但し, 設計計上数量が10m <sup>2</sup> 未満は小数点以下2位
	立 積	m <sup>3</sup>	〃 1位	但し, 設計計上数量が10m <sup>3</sup> 未満は小数点以下2位

(注) 1 最終値以下は四捨五入とする。

2 本表は一般的な計算書であるので類似の場合も本表によるものとする。